

**2004年度**

# **免許課程シラバス**

**獨協大学**



## 【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

科目の授業内容は、目次で検索してください。目次は対象者別（入学年度により異なる）の、カリキュラム順に掲載されています。

① 適用年度	② 科目名	③ 担当者
④ ◆講義目的 講義概要		⑦ ◆授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
<b>【春学期】</b>		
⑤ ◆評価方法		
⑥ ◆テキスト 参考文献		

\*上段は、春学期科目です。

- ①② 入学年度により科目が異なります。  
※該当科目がない場合は「\*\*\*」で表示されます。
- ③ 担当教員氏名
- ④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。
- ⑤ a科目は春学期終了時に成績評価が出ます。  
b科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。
- ⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。
- ⑦ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。

適用年度	科目名	担当者
◆講義目的 講義概要		◆授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
<b>【秋学期】</b>		
◆評価方法		
◆テキスト 参考文献		

\*下段は、秋学期科目です。

各項目については、春学期と同一です。



## 目 次 (1)

### 2004年度入学者(全学科)対象

教職課程(教職に関する科目)	新カリキュラム
教職論 -----	鳥谷部 志乃恵 ----- 1
教職論 -----	川村 肇 ----- 2
教育原論 -----	鳥谷部 志乃恵 ----- 3
教育原論 -----	川村 肇 ----- 4
教職心理学 -----	田口 雅徳 ----- 5
教職心理学 -----	林 潔 ----- 6
教職心理学 -----	横田 雅弘 ----- 7

教職課程(教科に関する科目)	新カリキュラム
日本史概説Ⅰ(古中世) -----	會田 康範 ----- 50
日本史概説Ⅱ(近現代) -----	會田 康範 ----- 50
外国史概説Ⅰ(東洋史) -----	兼田 信一郎 ----- 51
外国史概説Ⅱ(西洋史) -----	久慈 栄志 ----- 53
地理学概説Ⅰ(自然) -----	秋本 弘章 ----- 55
地理学概説Ⅱ(人文) -----	秋本 弘章 ----- 55
地誌学概説Ⅰ(日本) -----	秋本 弘章 ----- 56
地誌学概説Ⅱ(世界) -----	秋本 弘章 ----- 56

## 目 次 (2)

### 2003年度入学者(全学科)対象

教職課程(教職に関する科目)	新カリキュラム	
教職論	鳥谷部 志乃恵	1
教職論	川村 肇	2
教育原論	鳥谷部 志乃恵	3
教育原論	川村 肇	4
教職心理学	田口 雅徳	5
教職心理学	林 潔	6
教職心理学	横田 雅弘	7
教育制度	池田 賢一	9
教育課程論	鳥谷部 志乃恵	10
教育課程論	安井 一郎	11
社会科教育法 I	秋本 弘章	19
地理・歴史科教育法 I (世界史)	古川 堅治	21
道德教育の研究	鳥谷部 志乃恵	27
道德教育の研究	安井 一郎	28
特別活動	安井 一郎	29
特別活動	小川 輝之	30
教育方法学	町田 喜義	31
教育方法学	安井 一郎	32
生徒指導法	小川 一郎	33
生徒指導法	小川 輝之	34
学校カウンセリング	瀧本 孝雄	35
学校カウンセリング	鈴木 乙史	36
学校カウンセリング	林 潔	37
学校カウンセリング	森川 正大	38
介護ボランティアの理論と実践	川野 祐二	49

教職課程(教科に関する科目)	新カリキュラム	
日本史概説 I (古中世)	會田 康範	50
日本史概説 II (近現代)	會田 康範	50
外国史概説 I (東洋史)	兼田 信一郎	51
外国史概説 II (西洋史)	久慈 栄志	53
地理学概説 I (自然)	秋本 弘章	55
地理学概説 II (人文)	秋本 弘章	55
地誌学概説 I (日本)	秋本 弘章	56
地誌学概説 II (世界)	秋本 弘章	56
法律学概説 I	内山 良雄	57
法律学概説 II	内山 良雄	57
政治学概説 I	杉田 孝夫	58
政治学概説 II	杉田 孝夫	58
社会学概説 I	有吉 広介	59
社会学概説 II	有吉 広介	59

哲学概説 I -----	河口 伸 -----	60
哲学概説 II -----	河口 伸 -----	60
倫理学概説 I -----	鳥谷部 志乃恵 -----	61
倫理学概説 II -----	鳥谷部 志乃恵 -----	61
宗教学概説 I -----	河口 伸 -----	62
宗教学概説 II -----	河口 伸 -----	62
心理学概説 I -----	田口 雅徳 -----	63
心理学概説 II -----	田口 雅徳 -----	63

## 目 次 (3)

2000～2002年度入学者(全学科)対象

1999年度入学者(言語文化学科・国際関係法学科)対象

教職課程(教職に関する科目)	新カリキュラム	
教職論	鳥谷部 志乃恵	1
教職論	川村 肇	2
教育原論	鳥谷部 志乃恵	3
教育原論	川村 肇	4
教職心理学	田口 雅徳	5
教職心理学	林 潔	6
教職心理学	横田 雅弘	7
教育制度	池田 賢一	9
教育課程論	鳥谷部 志乃恵	10
教育課程論	安井 一郎	11
ドイツ語科教科教育法Ⅰ	本多 喜三郎	12
ドイツ語科教科教育法Ⅱ	本多 喜三郎	12
英語科教科教育法Ⅱ	阿部 一	13
英語科教科教育法Ⅰ	清水 由理子	14
英語科教科教育法Ⅱ	清水 由理子	14
英語科教科教育法Ⅰ	J.J. Duggan	15
英語科教科教育法Ⅱ	J.J. Duggan	15
英語科教科教育法Ⅰ	T.マーフィ	16
英語科教科教育法Ⅱ	T.マーフィ	16
英語科教科教育法Ⅰ	浅岡 千利世	17
英語科教科教育法Ⅱ	浅岡 千利世	17
フランス語科教科教育法Ⅰ	常盤 僚子	18
フランス語科教科教育法Ⅱ	常盤 僚子	18
社会科教育法Ⅰ	秋本 弘章	19
社会科教育法Ⅱ	秋本 弘章	20
社会科教育法Ⅲ	秋本 弘章	20
地理・歴史科教育法Ⅰ(世界史)	古川 堅治	21
地理・歴史科教育法Ⅱ(地理)	秋本 弘章	22
地理・歴史科教育法Ⅲ(日本史)	會田 康範	22
公民科教育法Ⅰ	小川 一郎	23
公民科教育法Ⅱ	小川 一郎	23
情報科教育法Ⅰ	秋本 弘章	24
情報科教育法Ⅱ	秋本 弘章	24
道德教育の研究	鳥谷部 志乃恵	27
道德教育の研究	安井 一郎	28
特別活動	安井 一郎	29
特別活動	小川 輝之	30
教育方法学	町田 喜義	31
教育方法学	安井 一郎	32
生徒指導法	小川 一郎	33
生徒指導法	小川 輝之	34
学校カウンセリング	瀧本 孝雄	35
学校カウンセリング	鈴木 乙史	36



学校カウンセリング	林 潔	37
学校カウンセリング	森川 正大	38
総合演習	鳥谷部 志乃恵	39
総合演習	安井 一郎	40
総合演習	秋本 弘章	41
総合演習	渋谷 英章	42
教育実習論(事前・事後指導)	鳥谷部 志乃恵	43
教育実習論(事前・事後指導)	安井 一郎	44
教育実習論(事前・事後指導)	小川 一郎	45
教育実習論(事前・事後指導)	小川 輝之	46

### 教職課程(教科に関する科目)

### 新カリキュラム

日本史概説Ⅰ(古中世)	會田 康範	50
日本史概説Ⅱ(近現代)	會田 康範	50
外国史概説Ⅰ(東洋史)	兼田 信一郎	51
外国史概説Ⅱ(西洋史)	久慈 栄志	53
地理学概説Ⅰ(自然)	秋本 弘章	55
地理学概説Ⅱ(人文)	秋本 弘章	55
地誌学概説Ⅰ(日本)	秋本 弘章	56
地誌学概説Ⅱ(世界)	秋本 弘章	56
法律学概説	内山 良雄	57
政治学概説	杉田 孝夫	58
社会学概説	有吉 広介	59
哲学概説	河口 伸	60
倫理学概説	鳥谷部 志乃恵	61
宗教学概説	河口 伸	62
心理学概説	田口 雅徳	63

### 教職課程(カリキュラム外科目)

次の科目は、2003年度入学者適用の科目ですが、免許法の一部改正により、2002年度以前入学の学生についても選択科目として履修することが望ましい科目です。

\* 2つ以上の免許教科を取得する学生を対象とする。

教科教育法特論Ⅰ	安井 一郎	25
教科教育法特論Ⅱ	清水 由理子	26

\* 教育実習の事後指導の科目なので、教育実習に参加した学生を対象とする。

教育実習論Ⅱ(事後指導)	鳥谷部 志乃恵	47
教育実習論Ⅱ(事後指導)	安井 一郎	48

\* 介護等体験にかかわる科目なので、介護等体験に参加する学生を対象とする。

介護ボランティアの理論と実践	川野 祐二	49
----------------	-------	----

## 目 次 (4)

1999年度以前入学者

(ドイツ語・英語・フランス語・経済・経営・法律学科)対象

教職課程(教職に関する科目)	旧カリキュラム	
教育原論 I	鳥谷部 志乃恵	3
教育原論 I	川村 肇	4
教職心理学 I	田口 雅徳	5
教職心理学 I	林 潔	6
教職心理学 I	横田 雅弘	7
教育法規	池田 賢一	9
生涯教育論 (司書科目「生涯学習概論」と合併)	渋谷 英章	8
ドイツ語科教育法 I	本多 喜三郎	12
ドイツ語科教育法 II	本多 喜三郎	12
英語科教育法 II	阿部 一	13
英語科教育法 I	清水 由理子	14
英語科教育法 II	清水 由理子	14
英語科教育法 I	J.J. DUGGAN	15
英語科教育法 II	J.J. DUGGAN	15
英語科教育法 I	T.マーフィ	16
英語科教育法 II	T.マーフィ	16
英語科教育法 I	浅岡 千利世	17
英語科教育法 II	浅岡 千利世	17
フランス語科教育法 I	常盤 僚子	18
フランス語科教育法 II	常盤 僚子	18
社会科教育法 I	秋本 弘章	20
社会科教育法 II	秋本 弘章	20
地理・歴史科教育法(通年)(春学期)「歴史」	會田 康範	22
地理・歴史科教育法(通年)(秋学期)「地理」	秋本 弘章	22
公民科教育法 I	小川 一郎	23
公民科教育法 II	小川 一郎	23
道德教育の研究	鳥谷部 志乃恵	27
道德教育の研究	安井 一郎	28
特別活動	安井 一郎	29
特別活動	小川 輝之	30
教育方法学	町田 喜義	31
教育方法学	安井 一郎	32
生徒指導法	小川 一郎	33
生徒指導法	小川 輝之	34
教育実習 I (教育実習の事前・事後指導)	鳥谷部 志乃恵	43
教育実習 I (教育実習の事前・事後指導)	安井 一郎	44
教育実習 I (教育実習の事前・事後指導)	小川 一郎	45
教育実習 I (教育実習の事前・事後指導)	小川 輝之	46

教職課程(教科に関する科目)

旧カリキュラム

日本史概説	-----	會田 康範	-----	50
外国史概説 I	-----	兼田 信一郎	-----	51
外国史概説 II	-----	熊谷 哲也	-----	52
外国史概説 III	-----	久慈 栄志	-----	53
外国史概説 IV	-----	久慈 栄志	-----	54
地理学概説	-----	秋本 弘章	-----	55
地誌学概説 I	-----	秋本 弘章	-----	56
地誌学概説 II	-----	秋本 弘章	-----	56
社会学概論	-----	有吉 広介	-----	59
哲学概説	-----	河口 伸	-----	60
倫理学概論	-----	鳥谷部 志乃恵	-----	61
宗教学概論	-----	河口 伸	-----	62
心理学概論	-----	田口 雅徳	-----	63

## 目 次 (5)

### 2003年度入学者(全学科)対象

司 書 課 程		
---------	--	--

生涯学習概論 (教職科目「生涯教育論」と合併) -----	渋谷 英章 -----	8
図書館概論 -----	井上 靖代 -----	64
図書館経営論 -----	井上 靖代 -----	65
図書館サービス論 -----	井上 靖代 -----	65
図書館資料論 -----	井上 靖代 -----	69
専門資料論 -----	松下 鈞 -----	70
児童サービス論 -----	井上 靖代 -----	73
図書及び図書館史 -----	井上 靖代 -----	74
コミュニケーション論 -----	町田 喜義 -----	76

## 目 次 (6)

### 2002年度以前入学者(全学科)対象

司 書 課 程		
---------	--	--

生涯学習概論 (教職科目「生涯教育論」と合併) -----	渋谷 英章 -----	8
図書館概論 -----	井上 靖代 -----	64
図書館サービス経営論 -----	井上 靖代 -----	65
情報サービス論 -----	福田 求 -----	66
情報検索演習 -----	高柳 敏子 -----	67
情報検索演習 -----	福田 求 -----	68
図書館資料論 -----	井上 靖代 -----	69
専門資料論 -----	松下 鈞 -----	70
資料組織概説 -----	松下 鈞 -----	71
資料組織演習 -----	松下 鈞 -----	72
児童サービス論 -----	井上 靖代 -----	73
図書及び図書館史 -----	井上 靖代 -----	74
資料特論 -----	松下 鈞 -----	75
コミュニケーション論 -----	町田 喜義 -----	76
図書館特論 -----	千葉 治 -----	77

## 目 次 (7)

### 全学部学科対象

司書教諭課程		
--------	--	--

学校経営と学校図書館 -----	井上 靖代 -----	78
学校図書館メディアの構成 -----	井上 靖代 -----	79
学習指導と学校図書館 -----	井上 靖代 -----	80
読書と豊かな人間性 -----	井上 靖代 -----	81
情報メディアの活用 -----	福田 求 -----	82

<新カリ科目名>	教職論	担当者	鳥谷部 志乃恵
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><b>講義目標</b>          教職課程履修の入門科目であるため、教職に就くために必要不可欠な知識や技術は何であるのかと言う事の学習を通じて、教職の意義を明らかにし、併せて子供と学校を取り巻く状況分析を試みる中で、今日のわが国の教育が抱える問題を明らかにする。</p> <p><b>講義概要</b>          教師に求められる資質・能力や職務内容に対応するための実践的指導力について理解し、教員養成の抱える新たな課題と教員採用の実態や待遇・研修等について学習する。</p> <p>◆ 評価方法          学習内容の区切りごとに提出する小レポートと期末レポートの総合評価による。</p> <p>◆テキスト、参考文献          『教職入門』吉田辰雄 大森正 編著          (図書文化)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職とは何か。今後、教職課程で学習する内容について。今日の日本の社会が抱える子供の教育課題。</li> <li>2. 変化する社会と子供の生活（遊びと学習）</li> <li>3. 子供と学校の抱える問題（学校の管理運営）</li> <li>4. 教師の仕事（学習指導）</li> <li>5. 学習指導の考え方と方法（学習指導要領と総合的な学習の時間の課題）</li> <li>6. 生徒指導と生徒理解（教育相談・進路指導）</li> <li>7. 学級と学級経営（特別活動と道徳教育）</li> <li>8. 教師に求められる資質・能力（何が求められてきたのか）</li> <li>9. 教師に求められる資質・能力（いま何が求められているのか）</li> <li>10. 生徒と教師（学ぶことと教えること）</li> <li>11. 教員の養成と採用（教員養成の制度と採用の仕組み・採用選考の改革）</li> <li>12. 教員の地位と身分（待遇・勤務条件・研修）</li> </ol>	

<新カリ科目名>	教職論	担当者	鳥谷部 志乃恵
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

<<新カリ科目名>>	教職論	担当者	川村 肇
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【授業の目標】          教職課程で学ぶ諸科目の入門として、教職に就く心構えを学び、さまざまな角度から教育に対する見方を鍛えることを目標とする。</p> <p>【授業の概要】          1. 「学級崩壊」「いじめ」「体罰」など、現代教育の抱えている諸問題を取り上げて、実態をビデオ等により確認し、参加者で討議する。          2. 諸問題が教育や社会に投げかけている問題を認識し、今後の学習につなげていく道筋を理解していく。特に体罰については、その問題点の理解を深める。</p> <p>【参加者に対する要望など】          ・ビデオを見たり、グループ討議を取り入れるので、遅刻や欠席は避けること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末レポートによる。数回的小レポートを加味する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>配布プリント類による／参考文献は適宜紹介する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 4月9日 講義の進め方の説明／本学で教職免許状が取得できる理由</li> <li>2. 4月16日 学級崩壊を考える(実態把握)／宿題：学級崩壊への対処について</li> <li>3. 4月23日 学級崩壊を考える(グループ討論)</li> <li>4. 4月30日 学級崩壊を考える(グループ討論の発表)／宿題：少年法改正について</li> <li>5. 5月7日 ADHDを考える(実態把握)／宿題：ADHDから学ぶこと・体罰について(その1)</li> <li>6. 5月14日 体罰を考える(グループ討論)</li> <li>7. 5月21日 体罰を考える(体罰に関する理論的問題)</li> <li>8. 5月28日 体罰を考える(実態把握)／宿題：体罰について(その2)</li> <li>9. 6月4日 いじめを考える(実態把握)／宿題：いじめへの対処について</li> <li>10. 6月11日 いじめを考える(グループ討論)</li> <li>11. 6月18日 いじめを考える(対処について)</li> <li>12. 6月25日 現代社会と教育問題について</li> </ol>	

<<新カリ科目名>>	教職論	担当者	川村 肇
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p style="text-align: center;">春学期に同じ</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>春学期に同じ</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>春学期に同じ</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 9月28日 講義の進め方の説明／本学で教職免許状が取得できる理由</li> <li>2. 10月5日 学級崩壊を考える(実態把握)／宿題：学級崩壊への対処について</li> <li>3. 10月12日 学級崩壊を考える(グループ討論)</li> <li>4. 10月19日 学級崩壊を考える(グループ討論の発表)／宿題：少年法改正について</li> <li>5. 10月26日 ADHDを考える(実態把握)／宿題：ADHDから学ぶこと・体罰について(その1)</li> <li>6. 11月9日 体罰を考える(グループ討論)</li> <li>7. 11月16日 体罰を考える(体罰に関する理論的問題)</li> <li>8. 11月30日 体罰を考える(実態把握)／宿題：体罰について(その2)</li> <li>9. 12月7日 いじめを考える(実態把握)／宿題：いじめへの対処について</li> <li>10. 12月14日 いじめを考える(グループ討論)</li> <li>11. 12月21日 いじめを考える(対処について)</li> <li>12. 1月11日 現代社会と教育問題について</li> </ol>	

<<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	教育原論 教育原論 I	担当者	鳥谷部 志乃恵
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><b>講義目標</b>          動物の飼育や植物の栽培と異なる人間の教育の本質と目的について考察を加え、理解を深めることで、人間の教育の本質と可能性についての基本概念を学ぶ。教育実践を規定する、社会・文化・歴史・人間観などについての思想史的な考察を手懸りとして、教育の理念・目的・目標などについて吟味し、目的意識と教育実践の本質的な関係についての理解を深める。</p> <p><b>講義概要</b>          次の事項について講義する。          教育の概念と基本的構造          現代社会における教育目的の構造          教育観の基点としての子供観          人間観・社会観・文化観・歴史観とのかかわりの中での教育観の展開</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>2回のレポートと定期試験の成績の総合評価</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『教育と教育観』原聡介他共著 文教書院</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育を不可欠とする人間の基本的特性</li> <li>2. 教育作用と教育的人間関係の基本</li> <li>3. ライフサイクルにおける人間形成の諸相</li> <li>4. 素質説・遺伝説における教育の可能性</li> <li>5. 経験説・環境説における教育の可能性</li> <li>6. 相互作用説から見た教育の可能性と限界</li> <li>7. 教育目的を規定する基本概念について</li> <li>8. 教育目的の諸要因（社会・文化・子供）</li> <li>9. わが国の教育目的の変遷</li> <li>10. 今日の学校教育の目的と課題の分析</li> <li>11. 教育実践における目的意識の役割と意味</li> <li>12. 人類社会の存続と教育の相互作用</li> </ol>	

<<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	教育原論 教育原論 I	担当者	鳥谷部 志乃恵
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

<<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	教育原論 教育原論 I	担当者 川村 肇
<b>◆講義目的、講義概要</b>		<b>◆授業計画</b>
<p>【授業の目標】          教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養う。</p> <p>【授業の概要】          1. 子どもの権利条約や教育基本法等を素材にして、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学ぶ。          2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていく。</p> <p>【参加者への要望等】          ・ほぼ毎回、感想文を書くこと、資料を読むことを求める。          ・ビデオ等の教材提示があるので、遅刻や欠席は避けること。          ・法的小および歴史的な理解には、特に力を入れてほしい。</p>		<p>1 4月13日 講義の進め方の説明／「学力論争」をどう考えるか</p> <p>2 4月20日 総合的な学習の時間と戦後教育の歴史(その1)</p> <p>3 4月27日 総合的な学習の時間と戦後教育の歴史(その2)</p> <p>4 5月11日 学力問題の国際比較(学力調査について)／小テスト実施予定</p> <p>5 5月18日 学力問題の国際比較(ドイツの事例)</p> <p>6 5月25日 学力問題の国際比較(フィンランドの事例)</p> <p>7 6月1日 「わかる」ことと「できる」こと</p> <p>8 6月8日 能力を考える(教育基本法第3条)</p> <p>9 6月15日 教育における競争と自由の問題を考える</p> <p>10 6月22日 子どもの権利条約の精神(保護と参加／3つのP)</p> <p>11 6月29日 子どもに固有の権利と人権との関係</p> <p>12 7月6日 子どもとはどういう存在か(系統発達と子どもの発見)</p>
<b>◆ 評価方法</b>		
期末試験に、感想文や小レポートの提出、小テストの点数等を加味する。		
<b>◆テキスト、参考文献</b>		
『ポケット版 子どもの権利ノート』(300円)／参考文献は適宜紹介する。		

<<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	教育原論 教育原論 I	担当者 川村 肇
<b>◆講義目的、講義概要</b>		<b>◆授業計画</b>
<p>春学期に同じ</p>		<p>1 9月24日 講義の進め方の説明／「学力論争」をどう考えるか</p> <p>2 10月1日 総合的な学習の時間と戦後教育の歴史</p> <p>3 10月8日 総合的な学習の時間と戦後教育の歴史</p> <p>4 10月15日 学力問題の国際比較</p> <p>5 10月29日 学力問題の国際比較</p> <p>6 11月5日 学力問題の国際比較</p> <p>7 11月12日 「わかる」ことと「できる」こと</p> <p>8 11月19日 能力を考える(教育基本法第3条)</p> <p>9 11月26日 教育における競争と自由の問題を考える</p> <p>10 12月3日 子どもの権利条約の精神(保護と参加／3つのP)</p> <p>11 12月10日 子どもに固有の権利と人権との関係</p> <p>12 12月17日 子どもとはどういう存在か(系統発達と子どもの発見)</p>
<b>◆ 評価方法</b>		
春学期に同じ		
<b>◆テキスト、参考文献</b>		
春学期に同じ		



<<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	教職心理学 教職心理学 I	担当者	田口 雅徳
<b>◆講義目的、講義概要</b>		<b>◆授業計画</b>	
<p>今日、「生きる力」を育てる教育が求められている。こうした状況の中で、教育心理学においてこれまで得られてきた知見が、学校教育における子どもの理解や指導にどのように役立つのかを講義していきたい。</p> <p>本講義の授業概要は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職心理学とはなにか？</li> <li>2. 教育評価</li> <li>3. 学習意欲と動機付け</li> <li>4. 学級集団と教師の役割</li> <li>5. 障害の理解と対応</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育心理学とは何か？</li> <li>2. 教育測定と教育評価</li> <li>3. 教育評価の意義と役割</li> <li>4. 教育評価の方法</li> <li>5. 教育評価と学習意欲</li> <li>6. 学習における動機付け</li> <li>7. 学習意欲と原因帰属理論</li> <li>8. 学習意欲と教師の役割</li> <li>9. 教師の適性</li> <li>10. 教師のリーダーシップと学級集団</li> <li>11. 障害の理解と対応①</li> <li>12. 障害の理解と対応②</li> </ol>	
<b>◆ 評価方法</b>			
出席とレポート，試験により評価する。			
<b>◆テキスト、参考文献</b>			
テキストはとくに使用しない。プリントによる。参考文献は授業において指示する。			

<<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	教職心理学 教職心理学 I	担当者	田口 雅徳
<b>◆講義目的、講義概要</b>		<b>◆授業計画</b>	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
<b>◆ 評価方法</b>			
<b>◆テキスト、参考文献</b>			

<<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	教職心理学 教職心理学Ⅰ	担当者	林 潔
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>目的          学校教育の場面で役立つ心理学の基礎について解説します。          心理学のアプローチもいろいろな立場があります。心理学の基礎的な考え方から、出来事の理解と方法について紹介します。          教育といっても教科指導と生徒指導・進路指導と幅が広いです。それぞれに役立つ心理学の方法論を紹介したいと思います。知識の伝達という場合でも生徒の気持ちの問題を無視できません。例えば答えが分かっているにもかかわらず手を上げない生徒がいます。どうしてでしょう？</p> <p>概要          心理学の基礎的な考え方から、不登校、学習指導の基本についてとりあげます。そしてこの分野の最近の動向について紹介します。          なお、質問などにはメールも活用してください。  <b>hayashi@shiraume.ac.jp</b></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.教育における心理学の役割</li> <li>2.行動をどう理解するか(行動主義) 行動は条件づけによってつくられる。</li> <li>3.同 (認知論) ものの見方を手掛かりとして。</li> <li>4.同 (精神分析Ⅰ) 自分の気がつかない世界に目を向けて</li> <li>5.同 (精神分析Ⅱ) 適応と防衛</li> <li>6.同 (交流分析) エゴグラムと交流様式</li> <li>7.集団について考える リーダーとしての先生の役割について</li> <li>8.集団についてのPM理論</li> <li>9.心理教育の役割 カウンセリングの予防・開発的</li> <li>10.不登校をめぐる問題</li> <li>11.学習指導と心理学</li> <li>12.教育心理学をめぐる最近の動向 学会の動向の紹介として、日本教育心理学会、日本カウンセリング学会、日本教育カウンセリング学会の最近のシンポジウムや発表内容を紹介します。</li> </ol>	
◆ 評価方法 期末試験、小レポート、平常点で評価します。			
◆テキスト、参考文献 特に使用しません。参考書は随時紹介します。			

* * * * *		担当者	* * * * *
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
◆評価方法			
◆テキスト、参考文献			

《新カリ科目名》	教職心理学		
《旧カリ科目名》	教職心理学 I	担当者	横田雅弘
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>この授業の第一の狙いは、実際に教職についたときに役立つ心理学の実践的知識を身につけることである。ただし、教職で必要となる心理学の知識を半年間で網羅することは不可能である。むしろ、単に知識を暗記するのではなく、それらの知識を通して教職という仕事についての自分なりの考え方を確立してほしい。第二の狙いは、教師としての自分自身を知ることである。特に初等・中等教育の教師は子供たちと全人格的に交わるのであり、そのときに自分が教師として、あるいは人間としてどのような特性をもっているのか、どのような教師になりたいと思っているのか、そのために自分のどこを活かし、どこをよりのぼしていかなければならないかを知ることが大切である。授業はこの自分理解の手助けを行う。授業は、教職に関する心理学の講義の他に、心理テストとそれを理解するための交流分析の理論講義とディスカッションが中心となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションおよび心理テスト TPI の記入</li> <li>2 発達と教育 (1) : 発達観と教育、認知的発達</li> <li>3 発達と教育 (2) : 道徳性の発達、知能の発達と創造性 &lt;自分の発達観と教育観を知る&gt;</li> <li>4 人間関係と社会性の発達: 親・友達・教師と子供、青年期のアイデンティティ &lt;自分のアイデンティティ&gt;</li> <li>5 学習理論、動機づけ理論、創造性: 理論紹介 &lt;自分の動機づけの傾向について考える&gt;</li> <li>6 交流分析の講義と自己分析 (1)</li> <li>7 交流分析の講義と自己分析 (2)</li> <li>8 ディスカッション=教師としての自分の強みと弱みの自己分析</li> <li>9 学校不適應と精神衛生 : 登校拒否、暴力、いじめなど</li> <li>10 カウンセリングの基礎知識 (1)</li> <li>11 カウンセリングの基礎知識 (2)</li> <li>12 テスト実施およびレポート (A4 ワープロ 1 枚)</li> </ol>	
◆評価方法			
レポートおよび試験による。			
◆テキスト、参考文献			
授業時間中に指示する			

	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

《司書科目名》	生涯学習概論	担当者	渋谷 英章
《教職科目名》	生涯教育論		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p><b>講義目的</b> 「生涯学習社会」は、現在ではあたりまえの言葉になっているが、ともすれば「学校を終えた人々に十分な学習機会が提供されれば生涯学習社会は完成する」という表面的で一面的な理解にとどまることが多い。この授業では、学校教育と社会教育をともに変革して両者の統合を図ることが、生涯社会の基本的な課題であり、また生涯学習こそが現代社会の課題解決の鍵であるという視点から、生涯学習社会におけるフォーマル教育、ノンフォーマル教育、インフォーマル教育のあり方とそれらの関係性について追究する。</p> <p><b>講義概要</b> まず、現在において「生涯学習社会」が求められる背景と生涯教育の理念を検討する。そのうえで、生涯学習社会における社会教育および学校教育のあり方を考える。その上で、日本の生涯学習の現状と課題を分析する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生涯学習社会とは</li> <li>2 ポール・ラングランの「生涯教育論」(1)</li> <li>3 ポール・ラングランの「生涯教育論」(2)</li> <li>4 生涯教育から生涯学</li> <li>5 社会教育の定義と特質</li> <li>6 ペダゴジーとアンドラゴジー</li> <li>7 ノンフォーマル教育</li> <li>8 現代的課題と生涯学習 (1)</li> <li>9 現代的課題と生涯学習 (2)</li> <li>10 学社連携と学社融合 (1)</li> <li>11 学社連携と学社融合 (2)</li> <li>12 最終試験</li> </ol>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 「生涯学習体験レポート」(必須)と「最終試験」(必須)をもとに評価する。 </div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 指定しない。適宜プリントを配布。ウェブ上からの資料のダウン・ロードを指示することもある。 </div>			

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	教育制度 教育法規	担当者	池田賢一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>社会的事象として教育をとらえ、その制度に着目したときに見えてくる諸問題について考察を加え、現代日本の教育問題の特徴を把握していくことを目的とする。</p> <p>そのために、まず、教育を制度として論じていくとはどのようなことかを確認し(=教育制度の定義の問題)、その後、教育制度が作り上げられてくる過程を歴史的に整理していく。これらを基礎として、現代日本の教育について、諸法令の基本的な考え方の学習を進めながら、その改革の動向と問題点を明らかにしていく。その際、具体的に取り上げるテーマは、進学問題、学力低下問題、教育基本法改正問題、障害児教育制度の課題、外国人児童生徒の学習権保障などを予定している。随時、現在進行中の改革についても取り上げていく。</p> <p>以上の学習を通して、受講生各人が自らの視点で現実の教育問題の構造を解きほぐしていける力をつけていってもらいたい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末に試験を実施する。(持ち込み可) 出席はとらない。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>特に指定しない。参考文献は、授業中に随時紹介していく。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育と教育制度の違い。 (教育制度の定義と問題点)</li> <li>2 義務教育制度の歴史 (課程主義と年齢主義の成立過程)</li> <li>3 義務教育についての諸法令 (教育基本法、学校教育法など)</li> <li>4 学校教育の問題点 (受講生の体験をもとに考える)</li> <li>5 学習指導要領の変遷(1)</li> <li>6 学習指導要領の変遷(2)と教科書問題</li> <li>7 学歴・進学問題</li> <li>8 教育における「平等」「自由」の検討</li> <li>9 教育基本法「改正」と学力問題</li> <li>10 障害児教育制度の問題点</li> <li>11 外国人児童生徒の教育課題</li> <li>12 日本の教育改革の動向と問題点 (まとめにかえて)</li> </ol>	

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	教育制度 教育法規	担当者	池田賢一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

<<新カリ科目名>>	教育課程論	担当者	鳥谷部 志乃恵
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><b>講義目標</b>          学校において展開される教育課程についての理解を深めると共に、教育内容と教育方法の関係を踏まえながら、学習者に対して柔軟に教育課程編成や課程運営が出来るような基礎力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b>          次の事項について取り扱う。          教育課程の基礎概念          教育課程の選択と配列          教育課程の類型          教育課程の展開          わが国の教育課程の編成とその基準          教育課程政策（学習指導要領改訂の流れ）          欧米の教育課程政策について          経験カリキュラムの指導案作成</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポートと定期試験の結果から総合判断する</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『新制教育原理』名倉英三郎編 八千代出版          中学・高校の学習指導要領を必ず購入すること</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程の意義</li> <li>2. 教育課程と教育方法の関係</li> <li>3. 教育課程の基礎概念</li> <li>4. 教育課程の選択と配列</li> <li>5. 陶冶材としての文化と経験</li> <li>6. 形式陶冶と実質陶冶</li> <li>7. 教育課程の類型（経験カリキュラム等）</li> <li>8. わが国の教育課程の変遷</li> <li>9. 教育課程改革の流れ（指導要領改訂の流れ）</li> <li>10. 教育課程の運営と課題</li> <li>11. 子供や学校の実態と教育課程改革の動向</li> <li>12. 比較教育学の視点から          （欧米の教育課程の特質と教育課程政策の動向について）</li> </ol>	

<<新カリ科目名>>	教育課程論	担当者	鳥谷部 志乃恵
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

<<新カリ科目名>>	教育課程論	担当者	安井一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><b>講義目的</b> 本講は、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日の課題について考察することを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題、諸外国における教育課程改革の動向等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、試験による総合評価</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>講義の中で紹介する</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育課程とは何か</li> <li>2 教育課程の構造と類型</li> <li>3 教育課程編成の理論と方法</li> <li>4 学習指導要領と教育課程(1)</li> <li>5 学習指導要領と教育課程(2)</li> <li>6 学習指導要領と教育課程(3)</li> <li>7 新教育課程の検討</li> <li>8 総合学習の可能性</li> <li>9 教育課程と学力問題</li> <li>10 教育課程の評価</li> <li>11 教育課程研究の今日的課題(1)</li> <li>12 教育課程研究の今日的課題(2)</li> </ol>	

<<新カリ科目名>>	教育課程論	担当者	安井一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

<<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	ドイツ語科教科教育法Ⅰ ドイツ語科教育法Ⅰ	担当者	本多喜三郎
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>ドイツ語教授法の歴史の変遷をドイツ語のテキストで概観することにより、代表的な教授法に関する基礎的知識とドイツ語の専門用語を習得するのが本講義の目的である。</p> <p>講義はテキストの主要部分の要約を中心に進める。毎回、予め指名した数名の受講生に翻訳の宿題を課す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 Einleitung</li> <li>3 Die Grammatik-Übersetzungs-Methode(1)</li> <li>4 Die Grammatik-Übersetzungs-Methode(2)</li> <li>5 Die direkte Methode(1)</li> <li>6 Die direkte Methode(2)</li> <li>7 Die audiolinguale Methode</li> <li>8 Die audiovisuelle Methode</li> <li>9 Die vermittelnde Methode</li> <li>10 Die Entwicklung der kommunikativen Didaktik</li> <li>11 Der interkulturelle Ansatz</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
◆ 評価方法			
期末試験と出席状況による。			
◆テキスト、参考文献			
G.Neuner/H.Hunfeld: <i>Methoden des fremdsprachlichen Deutschunterrichts</i>			

<<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	ドイツ語科教科教育法Ⅱ ドイツ語科教育法Ⅱ	担当者	本多喜三郎
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>教壇実習により教授法の具体的なテクニックを習得させることを目的とする。</p> <p>受講者全員が模擬授業を行い、互いに評価し合う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 模擬授業による教授法の研究</li> <li>3 同上</li> <li>4 同上</li> <li>5 同上</li> <li>6 同上</li> <li>7 同上</li> <li>8 同上</li> <li>9 同上</li> <li>10 同上</li> <li>11 同上</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
◆ 評価方法			
教壇実習、出席状況、レポート等による。			
◆テキスト、参考文献			
初回の授業で指示する。			



	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

《新カリ科目名》	英語科教科教育法Ⅱ	担当者	阿部 一
《旧カリ科目名》	英語科教育法Ⅱ		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>この講義は現在の日本の英語教育に照準を絞り、特に将来、中・高の英語教員を目指す人のために行われるものです。内容は実践優位で、随所に理論的な補足や関連資料を使った解説などが行われます。授業形式は二部に分かれ、一部はワークショップ形式であり、各種の指導テクニックと教材の分析や補強・工夫の仕方を徹底的に学んでもらいます。二部では受講生による模擬授業です。教案の書き方、発問の仕方、ドリルのやり方、T-Tの生かし方、AV機器の効果的利用法など、現場に立ったつもりでやってもらいます。さらに、近隣校の協力を得て受講生代表者による実際の研究授業を数回開催します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに：日本の英語教育界の現状と課題、どうすればいいのか？どのような教師が求められているのか？英語力について、授業力について *シラバス配布、グループ、発表順番などの決定。(受講希望者はこの回に必ず出席すること！)</li> <li>2. 発音を中心とした音声のワークショップ+ビデオによる模擬授業の観察、反省会</li> <li>3. リスニングのワークショップ+担当講師による模擬授業反省会</li> <li>4. 単語・文法のワークショップ+受講生の模擬授業、反省会</li> <li>5. 単語・文法のワークショップ+受講生の模擬授業、反省会</li> <li>6. スピーキングのワークショップ+受講生の模擬授業、反省会(この回は授業すべて英語使用)</li> <li>7. スピーキングのワークショップ+受講生の模擬授業、反省会(この回は授業すべて英語使用)</li> <li>8. スピーキングのワークショップ+受講生のT-Tによる模擬授業、反省会 *レポートとプロジェクトの話し</li> <li>9. リーディングのワークショップ+受講生の模擬授業、反省会</li> <li>10. リーディングのワークショップ+受講生の模擬授業、反省会</li> <li>11. ライティングのワークショップ+受講生の模擬授業、反省会</li> <li>12. おわりに：さらなる発展のための指針、教育実習、絶対評価の問題、基礎基本の問題、TOEICの問題など *まとめレポートとプロジェクトの提出</li> </ol>	
◆ 評価方法			
<p>典型的な授業参加型(しかもグループを組んだりする)のクラスなので、正式な理由のない欠席を多くする学生は絶対に受講しないこと。(評価が不可なのはもちろん、一緒に組んだまじめな受講生が迷惑する)評価は授業参加中心で発表、課題、貢献度など(60%)と学期末のまとめレポート及びプロジェクト発表など(40%)による。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>必要に応じてそのつど指示する。なお、最初の授業で授業用シラバスを配布する。</p>			

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	英語科教科教育法 I 英語科教育法 I	担当者	清水 由理子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>言語教育の考え方の変遷をたどり、どのような理論に基づく語学教育がなされてきたか、その有効性はどうかを学ぶ。また、日本における英語教育の現状とこれからの英語教育の在り方を考える。</p> <p>[講義概要] 新学習指導要領の実施にともない、コミュニケーション能力の育成、文法の位置づけ、絶対評価、小学校での英語教育など、さまざまな変化がみられる。教師は新しい考えを取り入れ、それに相応しい教え方をすることが求められている。 講義では、ビデオ教材なども用いながら語学教育の基本的な考え方を紹介する。それを基に、現状にどのように対処していけばよいかを考えてほしい。</p>		<p>1.授業の進め方、研究レポート課題について英語教師に望まれること</p> <p>2.日本における英語教育の変遷</p> <p>3 日本における英語教育の現状</p> <p>4.主な教授法の特徴 ①</p> <p>5.主な教授法の特徴 ②</p> <p>6.主な教授法の特徴 ③</p> <p>7.主な教授法の特徴 ④</p> <p>8.Audio-Visual Aids ①</p> <p>9. Audio-Visual Aids ②</p> <p>10.Testing and Evaluation ①</p> <p>11.Testing and Evaluation ②</p> <p>12.Teaching Plan</p>	
◆ 評価方法			
<p>研究レポートおよび期末試験により評価する。但し、出席が授業回数の1/2以下は不可とする。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>テキストは特に定めない。参考文献は授業時に紹介する。</p>			

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	英語科教科教育法 II 英語科教育法 II	担当者	清水 由理子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義目的] 春学期の講義を基に、授業一回分の学習指導案を作成し、その一部を実施してみる。</p> <p>[講義概要] 中学校または高等学校の学習指導案を作成し、それを基に模擬実習をする。実践と討論を中心に進める。 受講者が多い場合には、全員に模擬実習をしてもらえないことが生じる。模擬実習をしない人には、特別に学外の公開授業見学のレポートを提出してもらおう。詳しくは、最初の授業時に説明する。</p>		<p>1.授業の進め方、レポート課題(Teaching Plan 作成・公開授業見学報告)について Grammar の指導</p> <p>2. Listening and Speaking の指導</p> <p>3. Reading and Writing の指導</p> <p>4. 模擬実習 ①</p> <p>5. 模擬実習 ②</p> <p>6. 模擬実習 ③</p> <p>7. 模擬実習 ④</p> <p>8. 模擬実習 ⑤</p> <p>9. 模擬実習 ⑥</p> <p>10. 模擬実習 ⑦</p> <p>11. 模擬実習 ⑧</p> <p>12. 模擬実習 ⑨、まとめ</p>	
◆評価方法			
<p>平常点、レポートおよび期末試験により評価する。但し、出席が授業回数の1/2以下は不可とする。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>テキストは特に定めない。</p>			

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	英語科教科教育法 I 英語科教育法 I	担当者	J. J. Duggan
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The purpose of this course is to not just introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach), but also to establish a basis of understanding of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based, and upon which the student will be able to build and develop a coherent plan of instruction.</p> <p>We shall spend most of this term in reading, lecture, and discussion of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based.</p> <p>As class time is limited and valuable, students will be expected to keep up on the reading on their own time. Class time will be reserved for lecture and discussion.</p> <p>If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Grades are based on in-class participation, a number of assignments, and a final quiz based on the handouts and lecture.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Handouts.</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Week 1: Course description &amp; explanation. Assignment, reading.          Week 2: Theme: The teaching situation. Lecture, discussion, assignment.          Week 3: Theme: The role of the teacher. Lecture, discussion, reading.          Week 4: Theme: The role of the school. Lecture, discussion, reading, assignment.          Week 5: Theme: The role of the student. Lecture, discussion.          Week 6: Theme: How is language learned? Lecture, discussion, reading.          Week 7: Theme: Testing and Surveys. Lecture, discussion, presentations, assignment.          Week 8: Theme: Testing. Lecture, discussion, reading.          Week 9: Theme: The history of language teaching. Lecture, discussion.          Week 10: Theme: Approach and method--traditional. Lecture, discussion, handouts.          Week 11: Theme: Approach and method--modern. Lecture, discussion, assignment, reading.          Week 12: Planning a lesson. Lecture, discussion. First semester summary and review. Assessment.</p>	

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	英語科教科教育法 II 英語科教育法 II	担当者	J. J. Duggan
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The purpose of this course is, based on an understanding of the approaches, concepts, and reasoning on which foreign language education is based as presented in the first semester, to introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach) involved in teaching a successful language class.</p> <p>This course will be devoted to student in-class practice teaching based on the material covered in the first semester, and incorporating practical teaching techniques that will be covered in reading and lecture.</p> <p>We will first look at materials and techniques used in teaching the various language skills, and then develop a lesson plan making use of said techniques.</p> <p>If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Grades are based on in-class participation, a number of assignments, a presentation, and a final paper.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Hubbard, P. et al., <i>A Training Course for TEFL</i>. (Oxford Univ. Press.) Handouts.</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Week 1: Course Introduction, Decide presentation schedule          Week 2: Teaching Grammar--Lecture, Activities          Week 3: Teaching Grammar--Student presentations          Week 4: Teaching Reading--Lecture, Activities          Week 5: Teaching Reading--Student presentations          Week 6: Teaching Writing--Lecture, Activities          Week 7: Teaching Writing--Student presentations          Week 8: Teaching Listening--Lecture, Activities          Week 9: Teaching Listening--Student presentations          Week 10: Teaching Oral Communication--Lecture, Activities          Week 11: Teaching Oral Communication--Student presentations          Week 12: Course Review, Make-up presentations</p>	

《03 新カリ科目名》 《02 旧カリ科目名》	英語科教科教育法 I EFL Methodology 英語科教育法 I	担当者	T. Murphey
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course introduces students to a variety of teaching techniques (how to teach) and seeks to improve students' own use of English and teaching skills. We will be reading a chapter, or more, each week from the textbook and experimenting with the things we are reading about. Your own past language learning histories will be used as information for discussion. We will hold class in a language lab so that students will be able to record some lectures and discussions with classmates on audio and video. We will experience what we study as we study it to better understand through having the experience. We will also try to make it enjoyable and challenging with innovative learning.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Practical English Language Teaching, David Nunan (Ed), McGraw Hill 2003</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Week 1: Overview of the course and introduction.          Week 2: Teacher's demonstration / presentation of Chapter 1.          Week 3: Chapter 2 Listening          Week 4: Chapter 3 Speaking.          Week 5: Chapter 4 Reading          Week 6: Chapter 5 Writing.          Week 7: Mid-term Review.          Week 8: Chapter 6 &amp; 7          Week 9: Chapter 8 &amp; 9          Week 10: Chapter 10,11.          Week 11: Chapter 12,13.          Week 12: Chapter 14, 15</p> <p>評価方法 <i>Evaluation</i>: Students will be evaluated each week from their participation and action logs (weekly feedback). A paper at the end of each semester and an interview with the teacher will also support your grade. 1/3 absent or missed work = automatic "F" No final exam.</p>	

《03 新カリ科目名》 《02 旧カリ科目名》	英語科教科教育法 II EFL Methodology 英語科教育法 II	担当者	T. Murphey
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>SAME AS ABOVE ...PLUS          This semester will concentrate on actual teaching and presentation skills in small groups.</p> <p>Please note:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. This class has an English mostly policy—students are expected to try to use mostly English as much as possible and to achieve 100% English classes half the time during the each semester. Mistakes are OK, they show you are trying. Your level is not important, but your WILLINGNESS to try to speak in English is.</li> <li>2. The reading load for this class is 10 to 20 pages a week, but the book is relatively easy.</li> </ol> <p>◆ 評価方法</p> <p>SAME EVALUATION SYSTEM and TEXTS AS ABOVE</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>text</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Autumn Semester          Week 1: Overview of the course and introduction.          Week 2: Teacher's demonstration / presentation          Week 3: Students Active Teaching Segments          Week 4: Students Active Teaching Segments          Week 5: Mid-term evaluation test          Week 6: Students Active Teaching Segments.          Week 7: Students Active Teaching Segments          Week 8: Students Active Teaching Segments          Week 9: Students Active Teaching Segments          Week 10: Students Active Teaching Segments.          Week 11: Summing up the year-Practice Test          Week 12: Video What I Learned this Year</p> <p><u>Comment from a previous student</u>          "Videoing our teaching in English let me see what I was doing. I could really improve. Now I am not afraid of standing in front of a class!"</p>	

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	英語科教科教育法 I 英語科教育法 I	担当者	浅岡 千利世
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>The course presents theoretical and practical issues of language learning and teaching from the general perspective as well as from the perspective of Japanese contexts.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to course</li> <li>2. Teaching English as a foreign language</li> <li>3. Approaches &amp; Methods</li> <li>4. Syllabus and teaching guidelines</li> <li>5. Textbooks</li> <li>6. Class management &amp; lesson planning</li> <li>7. Class management &amp; lesson planning</li> <li>8. Team-teaching</li> <li>9. Testing/Evaluation</li> <li>10. Testing/Evaluation</li> <li>11. Early education and bilingualism</li> <li>12. Teaching global issues</li> </ol>	
◆ 評価方法			
journals, in-class work (attendance, participation, speech, quizzes), lesson plans and a final exam			
◆テキスト、参考文献			
新学習指導要領に基づく英語科教育法の構築と展開 (青木昭六編、現代教育社)			

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	英語科教科教育法 II 英語科教育法 II	担当者	浅岡 千利世
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>教科教育法の I をふまえた上で言語の 4 技能の実践的指導方法を学び、模擬授業や討論を中心に進める。模擬授業は全員が 2 回行い、それぞれビデオ録画する。録画ビデオを用いて教員との 1 対 1 の復習セッション(授業外)と自己評価を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Classroom language</li> <li>3. Model lessons in English</li> <li>4. Lesson planning</li> <li>5. Micro-teaching 1</li> <li>6. Micro-teaching 1</li> <li>7. Micro-teaching 1</li> <li>8. Feedback session</li> <li>9. Micro-teaching 2</li> <li>10. Micro-teaching 2</li> <li>11. Micro-teaching 2</li> <li>12. Micro-teaching 2</li> </ol>	
◆ 評価方法			
出席、授業への貢献、レッシンプラン(英語)とそれに基づいた模擬授業、自己評価を総合して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
講義支援システムを利用する。			

≪新カリ科目名≫ ≪旧カリ科目名≫	フランス語科教科教育法 I フランス語科教育法 I	担当者	常盤 僚子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>&lt;講義目的&gt;</p> <p>言語教育に携わっていく上で知っておく必要のある基礎的な知識の学習を通して教育実習に必要な事柄を学ぶ。また日本におけるフランス語教育および言語教育の現状とこれからについて考える。</p> <p>&lt;講義概要&gt;</p> <p>フランス語教育の歴史的変遷や教材、教室活動、教案の書き方、評価の仕方、などを紹介する。主に講義形式となるが、教材分析や教案の作成などグループ作業や個人作業も取り入れる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席と授業態度を重視する。また授業中の発表、課題、レポートなどを総合して評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>必要に応じて授業中に指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. コースデザイン、シラバスデザイン、カリキュラムデザイン</li> <li>3. 言語教育における教授法の歴史的変遷 1</li> <li>4. 言語教育における教授法の歴史的変遷 2</li> <li>5. 教材分析 1</li> <li>6. 教材分析 2</li> <li>7. 教室活動 1</li> <li>8. 教室活動 2</li> <li>9. 教材、教具の種類とその選択について</li> <li>10. 授業実践のための準備とまとめ 教案の書き方</li> <li>11. 評価について</li> <li>12. まとめ</li> </ol> <p>(順番は多少前後することがある)</p>	

≪新カリ科目名≫ ≪旧カリ科目名≫	フランス語科教科教育法 II フランス語科教育法 II	担当者	常盤 僚子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>&lt;講義目的&gt;</p> <p>教壇に立つための訓練を通して、教師の役割、授業準備や教室活動の実際、授業を行う際の注意点、問題点などについて考える。</p> <p>&lt;講義概要&gt;</p> <p>毎回学生による模擬授業を行う。教案を作成し実際に授業を行いながら、授業を行ううえで留意すべき点や問題点、およびその対処法について考える。短時間の模擬授業を各人が数回行えるようにする予定である。回数と持ち時間は受講者の人数によって決める。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席と授業参加態度を重視する。模擬授業の準備、模擬授業、課題などを総合して評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>必要に応じて授業中に指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入：模擬授業のための準備</li> <li>2. 模擬授業</li> <li>3. 模擬授業</li> <li>4. 模擬授業</li> <li>5. 模擬授業</li> <li>6. 模擬授業</li> <li>7. 模擬授業</li> <li>8. 模擬授業</li> <li>9. 模擬授業</li> <li>10. 模擬授業</li> <li>11. 模擬授業</li> <li>12. まとめ：教育実習のための注意点等</li> </ol>	

	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>			

《新カリ科目名》	社会科教育法 I	担当者	秋本 弘章
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。</p> <p>社会科教育法 I では、社会科教育の基本的性格を明らかにするとともに、学習指導要領に基づいて、教科の内容について基本的知識を身につける。また、今日社会科教育に課されている課題について考える。</p> <p>なお、科目の性質上、単なる講義ではなく受講者の発表等を取り入れながら授業を進めていく。</p> <p>*中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>文部省『中学校学習指導要領解説(平成10年12月)社会編』大阪書籍ほか</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会科教員の1日</li> <li>2 社会科成立の背景と意義</li> <li>3 社会科の教育課程とその変化(1)</li> <li>4 社会科の教育課程とその変化(2)</li> <li>5 社会科の教育内容(1) 地理的分野</li> <li>6 社会科の教育内容(2) 歴史的分野</li> <li>7 社会科の教育内容(3) 公民的分野</li> <li>8 社会科の今日的課題(1) 国際化</li> <li>9 社会科の今日的課題(2) 社会の変化</li> <li>10 社会科の今日的課題(3) 環境</li> <li>11 社会科の今日的課題(4) 人権</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	社会科教育法Ⅱ 社会科教育法Ⅰ	担当者	秋本 弘章
<b>◆講義目的、講義概要</b> 中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。社会科教育法Ⅱでは、社会科の授業実践のための基礎的な事項を身につけることを目的とする。 社会科で身につけるべき広い意味での学力（知識・技能・態度等）を踏まえて、その教授法を学ぶ。また、情報通信機器等に活用や地域との連携についても考えていく。科目の性質上、授業時に課題等が多く課せられる。また、臨地学習については見学先等との都合により、日時をかえて行なう場合がある。  * 中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。		<b>◆授業計画</b> 1 社会科の目標と身につけるべき力 2 学習と評価 3 講義式授業の特質 4 教材の収集と利用（1）新聞・雑誌・書籍 5 教材の収集と利用（2）視聴覚教材 6 教材の収集と利用（3）インターネット等 7 生徒主体の学習指導法（1）調べ学習の指導 8 生徒主体の学習指導法（2）ディベートと発表 9 シミュレーション教材の利用 10 臨地学習の意義と計画 11 臨地学習の実践 12 まとめ	
<b>◆ 評価方法</b> 授業参加度を重視する。授業時に出される小課題（レポート）等も重要な評価材料である。			
<b>◆テキスト、参考文献</b> 文部省『中学校学習指導要領解説（平成10年12月）社会編』大阪書籍ほか			

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	社会科教育法Ⅲ 社会科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
<b>◆講義目的、講義概要</b> 中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。 社会科教育法Ⅲでは、社会科の年間学習指導計画および学習指導案の書き方を学習した後、模擬授業を行い、社会科の教員としての望ましい知識と態度を身につける。  * 中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。		<b>◆授業計画</b> 1 学校カリキュラムの中の社会科 2 社会科各分野の特性、内容と年間学習指導計画 3 地理的分野の内容構成 4 歴史的分野の内容構成 5 公民的分野の内容構成 6 学習指導案の作成と模擬授業の準備 7 模擬授業（1） 8 模擬授業（2） 9 模擬授業（3） 10 模擬授業（4） 11 模擬授業（5） 12 まとめ	
<b>◆ 評価方法</b> 授業参加度を重視する。授業時に出される小課題（レポート）等も重要な評価材料である。			
<b>◆テキスト、参考文献</b> 文部省『中学校学習指導要領解説（平成10年12月）社会編』大阪書籍ほか			



《新カリ科目名》	地理・歴史科教育法 I (世界史)	担当者	古川堅治
----------	-------------------	-----	------

◆講義目的、講義概要

＜講義目的＞「歴史」を教えるということは、常に教える側の歴史観を問われることでもある。その意味で、「歴史」を教えることの「コトの重大さ」を認識する必要がある。それらを前提に現代の歴史学の成果と歴史教育の関連、歴史教育の沿革と具体的な教授法などを取り上げながら、歴史を教える基本的なスタンスを確立することが本講義の主目的である。

＜講義概要＞講義ではプリントを配布しながら概説的に説明していくが、現在話題となっている教科書問題や諸外国との歴史の共通認識の問題についても考えていきたい。授業はアト・ホームな雰囲気で行なうことに心がけたいため、受講生も積極的に発言等に努め、授業に参加していただきたい。なお、後半三回は「模擬授業」の回をもうけ、各回とも一人(ないしは、二人)ずつそれぞれ自分の好きなテーマを選んで「授業」(50分)を行なってもらう。

◆評価方法

期末レポート、小レポート、出席点を加味して評価する。模擬授業実施者は発表をもって代用する。

◆テキスト、参考文献

テキストは使用せず、参考文献は初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布する。

◆授業計画

- 1 はじめに：なぜ歴史を学ぶのか？  
歴史学の課題、歴史研究と歴史教育の関係
- 2 歴史教育の方法 (その1)  
映像資料を使った学習と史・資料の操作
- 3 歴史教育の方法 (その2)  
人物の採り上げ方と地域学習
- 4 『世界史A』と『世界史B』の扱い方  
A科目とB科目の意味と授業構成
- 5 歴史教育におけるヨーロッパ史 (その1)  
ヨーロッパ史教育の今日的意味と広域的地域世界
- 6 歴史教育におけるヨーロッパ史 (その2)  
国際歴史教科書対話 (ドイツの場合)：VIDEO
- 7 歴史教育におけるアジア史 (その1)  
日韓教科書論争と日本のアジア認識：VIDEO
- 8 歴史教育におけるアジア史 (その2)  
世界史の中の東アジアと歴史認識の共通化問題
- 9 まとめ：歴史の怖さと面白さ  
歴史と政治、謎解きの面白さ
- 10 模擬授業 (I)
- 11 模擬授業 (II)
- 12 模擬授業 (III)

*****		担当者	*****
-------	--	-----	-------

◆講義目的、講義概要

◆評価方法

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	地理・歴史科教育法Ⅲ（日本史） 地理・歴史科教育法「歴史」（通年）	担当者	會 田 康 範
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>歴史教育の「場」がどのように構成されてきたか、振り返ってみてほしい。その内容・教材構成・授業者と学習者、さまざまな要素とそれらの相互関係から成り立つ歴史教育（とりわけ日本史）のあり方を受講者のみなさんとともに模擬授業や討論などを通じて考察していくことが、本講義の目的であり内容である。</p> <p>これまでも、そしてこれからも歴史教育を構成する当事者として、主体的に講義に参加してくれることを期待している。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歴史を学ぶこと・教えること①</li> <li>2. 歴史を学ぶこと・教えること②</li> <li>3. 歴史研究と歴史教育</li> <li>4. 学習指導要領と教科書叙述</li> <li>5. 授業実践事例研究①</li> <li>6. 授業実践事例研究②</li> <li>7. 授業実践事例研究③</li> <li>8. 模擬授業と討論①</li> <li>9. 模擬授業と討論②</li> <li>10. 模擬授業と討論③</li> <li>11. 模擬授業と討論④</li> <li>12. まとめ</li> </ol> <p>なお、上記の計画は受講者の人数や授業展開により変更されることもある。</p>	
◆ 評価方法			
出席状況と試験の結果を総合的に評価する。状況に応じて簡単な小レポートを課すこともある。			
◆テキスト、参考文献			
特定のテキストは使用せず、プリントを配布する。参考文献は講義の中で紹介する。			

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	地理・歴史科教育法Ⅱ（地理） 地理・歴史科教育法「地理」（通年）	担当者	秋本 弘章
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>高等学校における地理教育の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、授業実践上基礎的な知識・技能の育成を目指す。</p> <p>本講義では、日本の地理教育史、各国の地理教育の現状を踏まえ、地理で身につけさせるべき見方・考え方・技能について実践的に考察する。</p> <p>* 高等学校「地理・歴史科」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地理教育の目標</li> <li>2. 日本の地理教育の歩み</li> <li>3. 諸外国の地理教育</li> <li>4. 地理的見方・考え方について</li> <li>5. 地図・地球儀の扱い方（1）</li> <li>6. 地図・地球儀の扱い方（2）</li> <li>7. 野外観察・調査の意義と計画</li> <li>8. 野外観察の実践</li> <li>9. 系統地理の学習指導</li> <li>10. 地誌の学習指導</li> <li>11. 主題的方法の学習指導</li> <li>12. 授業環境の整備、学習指導計画と学習指導案</li> </ol>	
◆ 評価方法			
授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。			
◆テキスト、参考文献			
文部省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』実教出版ほか			

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	公民科教育法Ⅰ 公民科教育法Ⅰ	担当者	小川 一郎
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p><b>講義の目的</b> 学習指導要領（平成元年）改訂によって、高等学校の社会科は再編成され、地理・歴史科と公民科となり、平成11年の改訂に引き継がれている。公民科では、国際化、情報化の進展に主体的に対応できる公民としての資質をもつ主体性のある人間の育成を目指す、十分それを達成できる公民科教育法を身につけさせる。</p> <p><b>講義概要</b> 戦前の公民教育が極端な国家主義や軍国主義に基づいたものであったことを認識させ、その反省の上に立って公民教育が出発したことを理解させる。</p> <p>公民科は、「公民としての資質の育成」を目指しているが、それを達成するための内容、方法について理解させる。模擬授業に2時間ほど充てる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年間の公民科教育法の概要について特に、前期の公民科教育法Ⅰの講座の概要について 現代における公民科教育の役割について</li> <li>2. 公民科教育の意義や目的を正しく理解するための「公民」の概念や「公民としての資質」について</li> <li>3. 公民科教育の、代表的な指導法や新しい学力観について</li> <li>4. 平成元年の学習指導要領の社会科の再編成による公民科の誕生について。その理由、社会的背景について。また、社会科の倫理や政経の分野の歴史の変遷について。さらに平成11年の改訂の主要事項について。</li> <li>5. 公民科の教育目標、内容と構造について、科目「現代社会」の内容構成について。</li> <li>6. 科目「倫理」の目標と内容構成について、「政治経済」の目標と内容構成について</li> <li>7. 年間授業計画の作成について</li> <li>8. 授業の指導案作成について</li> <li>9. 同上</li> <li>10. 模擬授業</li> <li>11. 模擬授業</li> <li>12. 公民教育が現代において当面するいくつかの課題について</li> </ol>	
◆ 評価方法			
単に、知識、理解をする講座ではないので、出席を重視する。			
◆テキスト、参考文献			
小川一郎『在り方生き方指導の理論と実践』清水書院 文部省『高等学校学習指導要領解説公民編』平成11年12月			

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	公民科教育法Ⅱ 公民科教育法Ⅱ	担当者	小川 一郎
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p><b>講義の目的</b> 公民科教育法Ⅱでは、目標、内容に対応した指導方法を研究し、実際に模擬授業などを行い、実践的指導力を身に付けさせる。また、表現力や判断力を身に付けさせるため、ディベートの授業など新しい指導方法を開発する意欲と実践力を培う。</p> <p><b>講義概要</b> 実際に授業を行う上で必要な指導方法に重点を置いて授業を進め、実際に学生が授業を行って、体験的に身につけるようにする。</p> <p>実際に、①問題解決学習 ②グループ学習 ③ディベート などを学習する</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公民科教育法Ⅱは、公民科教育法Ⅰの実践編であること。後期の講座の概要について</li> <li>2. 現代社会の課題設定について</li> <li>3. 同上</li> <li>4. 公民科の指導案の作成</li> <li>5. 作成した指導案について意見交換、講評</li> <li>6. 模擬授業の実施、自己批判、意見交換、講評</li> <li>7. 同上</li> <li>8. 同上</li> <li>9. 倫理的な思考力や表現力を育成する授業方法としてのディベートについて</li> <li>10. ディベート実施の準備</li> <li>11. ディベートの実施</li> <li>12. 公民科教育法についてこれまでの講座の総括。特に公民科教育法の課題について。</li> </ol>	
◆ 評価方法			
出席状況と提出物を重視 レポート提出			
◆テキスト、参考文献			
小川一郎『在り方生き方指導の理論と実践』清水書院 文部省『高等学校学習指導要領解説公民編』平成11年12月			

《新カリ科目名》	情報科教育法Ⅰ	担当者	秋本 弘章
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。情報科教育法Ⅰでは、情報科成立の背景から始めて、学習指導要領にもとづき情報科の内容を検討し、効果的な教育方法を考える。情報機器の利用方法を身につけると同時に学校におけるコンピュータ室の情報教室、学校全体の情報環境の整備・ネットワーク管理の基礎的な技能の育成も図る。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>文部省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂ほか</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 情報科成立の背景</li> <li>3 普通教科「情報」の目的</li> <li>4 普通教科「情報」の科目構成と各科目の特色</li> <li>5 専門教科「情報」の目的</li> <li>6 専門教科「情報」の科目構成と内容の概略</li> <li>7 情報科教材研究(1) 情報A</li> <li>8 情報科教材研究(2) 情報B</li> <li>9 情報科教材研究(3) 情報C</li> <li>10 情報科教材研究(4) 専門教科「情報」</li> <li>11 情報科教材研究(5) 専門教科「情報」</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	

《新カリ科目名》	情報科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。情報科教育法Ⅱでは、年間学習指導計画、学習指導計画の作成、授業参観、模擬授業を予定している。</p> <p>なお、授業参観については、相手校の都合等により日時をかえて行なう場合がある。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>文部省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂ほか</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 普通教科「情報」の特性と年間・単元学習指導計画</li> <li>2 専門教科「情報」の各科目の配置と年間学習指導計画</li> <li>3 「情報」学習指導の実際(授業見学)</li> <li>4 「情報」学習指導の実際(授業見学)</li> <li>5 「情報」学習指導の実際(授業見学)</li> <li>6 学習指導案の作成</li> <li>7 学習指導案の作成</li> <li>8 模擬授業(1)</li> <li>9 模擬授業(2)</li> <li>10 模擬授業( )</li> <li>11 模擬授業(4)</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	

*****	担当者	*****
<p>◆講義目的、講義概要</p> <div style="border: 1px solid black; height: 200px; width: 100%;"></div> <p>◆ 評価方法</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <p>◆テキスト、参考文献</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>	<p>◆授業計画</p> <div style="border: 1px solid black; height: 300px; width: 100%;"></div>	

《新カリ科目名》	教科教育法特論 I	担当者	安井一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>講義目的</b> 本講は、中学校における各教科の指導法に関する科目との関連を図りながら、中学校の教科教育に関する理解を広げ、教育課程及び各教科の指導法に関する学習を深めることを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 本講では、中学校教育の目的・目標、中学校の教育課程における教科教育の意義と役割、教科教育と教科外教育との関係、教科の授業と学習、学力と評価、教科教育の今日的課題等を明らかにすることによって、教科教育に関する理解を深める。また、総合的学習との関連を図った教科学習のカリキュラム案を作成する。</p> </div> <p>◆ 評価方法</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">出席、課題、レポートによる総合評価</div> <p>◆テキスト、参考文献</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">『教育実習の指針』獨協大学、その他は、講義の中で紹介する</div>	<p>◆授業計画</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 中学校教育の目的・目標</li> <li>2 中学校の教育課程</li> <li>3 教科の成立と発展</li> <li>4 教科教育と教科外教育</li> <li>5 必修教科と選択教科</li> <li>6 中学校教育における教科教育の意義</li> <li>7 学力と評価(1)</li> <li>8 学力と評価(2)</li> <li>9 教科と総合的な学習</li> <li>10 総合的な学習との関連を図った教科学習のカリキュラム作成(1)</li> <li>11 総合的な学習との関連を図った教科学習のカリキュラム作成(2)</li> <li>12 総合的な学習との関連を図った教科学習のカリキュラム作成(3)</li> </ol> </div>		

*****	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 350px;"></div>	
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

《新カリ科目名》	教科教育法特論Ⅱ	担当者	清水 由理子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義目的] 第二言語習得の研究は、近年目覚ましい発展を遂げている。この授業では最近の研究成果も補いながら、第二言語習得理論の視点から何が言語学習を形成しているかを学ぶ。</p> <p>[講義概要] 言語学習では発音、語彙、文法など特定の側面がどのように学ばれるのか、会話や読解での言語処理方法、言語学習にかかわる要因、教室での言語学習の特徴、学習スタイルと教授法などを扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. 第二言語習得研究</li> <li>3. 文法の学習</li> <li>4. 発音の学習</li> <li>5. 語彙の学習</li> <li>6. ディスコースの学習</li> <li>7. 読解のプロセス</li> <li>8. 学習要因としての動機づけと年齢</li> <li>9. 学習方略</li> <li>10. 教室内での言語入力と学習</li> <li>11. 第二言語学習のモデル</li> <li>12. 第二言語の学習スタイルと教授スタイル</li> </ol>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">出席状況、授業への参加度および期末試験により評価を出す。</div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Vivian Cook 『第2言語の学習と教授』(米山朝二訳) 研究社</div>			

<新カリ科目名> <旧カリ科目名>	道德教育の研究 道德教育の研究	担当者	鳥谷部 志乃恵
<b>◆講義目的、講義概要</b>		<b>◆授業計画</b>	
<p><b>講義目標</b>          人間形成における道德教育の必然性についての考察を深めることを介して、学校教育における道德の指導の特質を踏まえながら、特設された「道德の時間」における指導力を身に付けるための基礎力を養成することを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b>          次の諸問題について取り扱う。          道德とは何か          道德的価値についての分析          道德はどのように学習されるのか          心身の発達と道德教育との相関          道德に関わる基礎概念          わが国における道德教育の歴史          学校における道德教育の実践          今日の青少年問題と道德教育の課題          道德の指導案の構想</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会と道德教育の課題</li> <li>2. 道德の基礎概念</li> <li>3. 道德の価値と文化・社会の相互的關係</li> <li>4. 道德の基礎としての道德哲学</li> <li>5. 道德性の発達の理論</li> <li>6. わが国の道德の歴史と伝統文化について</li> <li>7. 戦前の道德教育（修身教育）の問題</li> <li>8. 戦後の道德教育の構造（社会科の導入）</li> <li>9. 学校における全面主義道德教育の構造</li> <li>10. 「道德の時間」における指導の内容と方法</li> <li>11. 教科の指導と道德の指導の違いについて</li> <li>12. 「道德の時間」の指導案の構想</li> </ol>	
<b>◆ 評価方法</b>			
いくつかのレポートの提出と定期試験と指導案の提出による総合評価。			
<b>◆テキスト、参考文献</b>			
『共にまなぶ道德教育』改訂版 村井実・遠藤克弥編著 川島書店 天野貞祐全集 栗田出版会			

<新カリ科目名> <旧カリ科目名>	道德教育の研究 道德教育の研究	担当者	鳥谷部 志乃恵
<b>◆講義目的、講義概要</b>		<b>◆授業計画</b>	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
<b>◆ 評価方法</b>			
<b>◆テキスト、参考文献</b>			

<<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	道徳教育の研究 道徳教育の研究	担当者	安井一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><b>講義目的</b>          本講は、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、児童・生徒の人間形成においてきわめて重要な役割を果たす道徳教育の目的、内容、方法及びその今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b>          道徳教育は、人間形成の基礎にかかわるものであり、人間が社会の中で人間として生きていくために不可欠の内容を有している。本講では、道徳教育の意義と目的、学校教育における位置と役割についての基本的理解を得たうえで、道徳について考えるうえでの基本的な問いを「教育において「いのち」のもつ意味は何か」と捉え、その観点から、今日の道徳教育の現状を分析し、その特徴と問題点を明らかにし、一人ひとりの子どもの「生きる力」の育成に資する道徳教育とは何かについての検討を加える。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、試験による総合評価</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説・道徳編』『心のノート 中学校』その他は講義の中で紹介する</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分の道徳教育体験を振り返る</li> <li>2 道徳とは何か</li> <li>3 学校教育における道徳教育の位置と役割(1)</li> <li>4 学校教育における道徳教育の位置と役割(2)</li> <li>5 「心のノート」について考える(1)</li> <li>6 「心のノート」について考える(2)</li> <li>7 教育における「いのち」の意味(1)</li> <li>8 教育における「いのち」の意味(2)</li> <li>9 「いのち」を考える授業</li> <li>10 学習指導案の作成(1)</li> <li>11 学習指導案の作成(2)</li> <li>12 道徳教育の懇意知的課題)</li> </ol>	

* * * * *		担当者	* * * * *
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	



<<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	特別活動 特別活動	担当者	安井一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><b>講義目的</b>          本講は、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、教科、道徳とともに教育課程の一領域を構成する特別活動の目的、内容、方法及びその今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b>          特別活動は、戦後教育の初期から、民主主義に基づく学校教育の重要な教育内容として計画され、実践されてきた。本講では、学校教育の大幅な改革が求められている今日において、子どもたちの自主的、実践的、集団的な活動である特別活動がますます重要な意味をもってくるとの認識に基づいて、それが児童期や青年期の人間形成においてどのような役割をもっているのか、その役割を十分に果たすためには児童・生徒の諸活動をどのように組織し、指導することが望ましいのか等の問題について検討を加える。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、試験による総合評価</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>山口満編著『新版特別活動と人間形成』学文社、文部科学省『中学校学習指導要領解説-特別活動編-』その他</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分の特別活動体験を振り返る</li> <li>2 現代の人間形成と特別活動(1)</li> <li>3 現代の人間形成と特別活動(2)</li> <li>4 教育課程における特別活動の位置と役割(1)</li> <li>5 教育課程における特別活動の位置と役割(2)</li> <li>6 学級活動・ホームルーム活動</li> <li>7 児童会活動・生徒会活動</li> <li>8 クラブ活動・(部活動)</li> <li>9 学校行事</li> <li>10 特別活動の今日的課題(1)</li> <li>11 特別活動の今日的課題(2)</li> <li>12 話し合い活動の実践</li> </ol>	

<<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	特別活動 特別活動	担当者	安井一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

《新カリ科目名》特別活動 《旧カリ科目名》特別活動	担当者	小川 輝之
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>学校教育における「特別活動」の意義や基本的性格、歴史的変遷等について学ぶとともに、学習指導要領を中心に、「特別活動」の目標や内容、方法等について具体的に検討する。また、「特別活動」に関わる今日的諸課題を取り上げ、課題解決に向けての方策や指導の在り方等について検討することにする。</p> <p>テキスト、配付プリント等を用いて講義中心の授業を行うが、適宜意見発表の機会を設ける。なお、授業計画3の実践研究では、課題ごとに研究班を編成し発表会を開く予定である。</p> <p>◆評価方法</p> <p>試験、研究活動・発表、レポート、出席状況等により総合的に評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト 文部省 『高等学校学習指導要領解説特別活動編』 東山書房 120 円</p>	<p>◆授業計画</p> <p>1～2 特別活動の意義</p> <p>①学校教育と特別活動</p> <p>②特別活動の歴史的変遷</p> <p>3～9 特別活動の目標と内容</p> <p>①特別活動の目標</p> <p>②特別活動の基本的性格</p> <p>③特別活動の指導計画・指導案の作成</p> <p>④特別活動の評価</p> <p>⑤学級・ホームルーム活動の特質と活動内容</p> <p>⑥生徒会活動の特質と活動内容</p> <p>⑦学校行事の特質と活動内容</p> <p>10～12 実践研究－特別活動の課題と指導計画・指導案・評価計画の作成</p> <p>①学級・ホームルーム活動</p> <p>②生徒会活動</p> <p>③学校行事</p> <p>④部活動</p>	

《新カリ科目名》特別活動 《旧カリ科目名》特別活動	担当者	小川 輝之
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p>	

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	教育方法学 教育方法学	担当者	町田 喜義
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>目的：広義の教育の方法と技術に関する知見を得る。</p> <p>概要：「コミュニケーション」、「教育・学習」そして「教師の役割・機能」の関連させながら、各自の教育方法のイメージを描けるよう支援する。併せて、受講生のグループ討論なども行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.プロローグ：概要説明</li> <li>2.コミュニケーション論入門①</li> <li>3.コミュニケーションの構成要素</li> <li>4.視聴覚メディアと教育</li> <li>5.教育メディアの種類と機能</li> <li>6.ビデオ教材による教育現場</li> <li>7.校外専門家による授業</li> <li>8.グループ討論</li> <li>9.教育工学と授業設計</li> <li>10.測定と評価①</li> <li>11.同上②</li> <li>12.エピローグ：まとめ</li> </ol>	
◆ 評価方法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席回数(15%)：欠席は3点減、遅刻は1点減、1/3欠席は単位不認定</li> <li>・ グループレポート(15%)</li> <li>・ 個人レポート(20%)</li> <li>・ 定期試験(50%)</li> </ul>			
◆テキスト、参考文献			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 佐賀啓男編著(2002)『視聴覚メディアと教育』樹村房、¥1,800</li> <li>・ 参考文献は開講時に配布する。</li> <li>・ ハンドアウトを配布する。</li> </ul>			

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	教育方法学 教育方法学	担当者	町田 喜義
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>			

<<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	教育方法学 教育方法学	担当者 安井一郎
<b>◆講義目的、講義概要</b> <b>講義目的</b> 本講は、今日の学校教育、とりわけ授業をめぐる問題状況を踏まえながら、教育方法の研究、実践に関する今日的な課題について考察することを目的とする。  <b>講義概要</b> 毎日の授業をどのように工夫したらよいのか、子どもたちの個性を最大限に生かせるような指導とは何か等の問いに代表されるように、授業の内容とその方法に関する諸問題は、学校教育における最も重要な課題の一つである。本講では、教育方法学のうち、特に授業研究の問題に焦点をあて、授業研究を行ううえでの基本的な考え方はどのようなものであるのか、授業を成り立たせている構成要素は何か、授業を展開する具体的な方法とは何か等の問題について、各種資料やVTRによる実際の授業記録などを用いながら多面的に検討を加え、授業研究に関する理解を深めていく。		<b>◆授業計画</b> 1 自分の授業体験を振り返る 2 授業とは何か 3 教材研究とは何か 4 教材研究の事例の検討(1) 5 教材研究の事例の検討(2) 6 授業を作る技術(1) 7 授業を作る技術(2) 9 林竹二の授業論(1) 10 林竹二の授業論(2) 11 林竹二の授業論(3)) 12 授業研究の今日的課題
<b>◆ 評価方法</b> 出席、レポート、試験による総合評価		
<b>◆テキスト、参考文献</b> 文部科学省『中学校学習指導要領解説・総則編』その他は、講義の中で紹介する		

<<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	教育方法学 教育方法学	担当者 安井一郎
<b>◆講義目的、講義概要</b>          (半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)		<b>◆授業計画</b>
<b>◆ 評価方法</b>		
<b>◆テキスト、参考文献</b>		

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	生徒指導法 生徒指導法	担当者	小川 一郎
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目的 生徒指導は、生徒のそれぞれの人格のより良き発達を目指すとともに、学校生活が生徒にとって充実したものになるようにすることを目的とする。そのためには、それぞれのもつ個性を伸ばし、自己実現を図り、進路を主体的に選択決定できる資質能力を育成するために、教師は生徒一人一人を理解し、指導・支援する必要がある。そのような教師の生徒指導の役割を理解するとともに、生徒指導の実践的指導力を育成することを目的とする。</p> <p>講義概要 生徒指導、進路指導の意義と課題 人間の成長、発達についての理解 問題行動の理解と指導法 ガイダンスの意味と役割 生徒指導、進路指導の組織と運営</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒指導、進路指導の意義と性格</li> <li>2. 生徒指導、進路指導の学校における位置付け</li> <li>3. 生徒指導の課題 人間関係の改善と望ましい人間関係の促進 基本的な生活習慣の改善など</li> <li>4. 進路指導の当面する課題 偏差値、進路適性と進路</li> <li>5. 人間としての在り方生き方と生徒指導、進路指導</li> <li>6. 生徒指導と生徒理解の方法と技術</li> <li>7. 進路指導と自己理解、個性の発見</li> <li>8. 問題行動の理解と指導Ⅰ いじめ、暴力、キレる生徒</li> <li>9. 問題行動の理解と指導Ⅱ いじめ、不登校、中途退学、その他</li> <li>10. 教育相談、進路相談、ガイダンス</li> <li>11. 進路指導の実践的展開</li> <li>12. 生徒指導、進路指導の組織と運営</li> </ol>	
◆ 評価方法			
出席状況 レポート提出			
◆テキスト、参考文献			
小川一郎 中野目直明 編著『現代の生活指導』 文教書院			

	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>			

《新カリ科目名》生徒指導法 《旧カリ科目名》生徒指導法		担当者	小川 輝之
◆講義目的、講義概要	◆授業計画		
生徒指導、教育相談、進路指導などに関する基本的原理について学ぶ。また、生徒指導上の今日的諸課題についての検討を通して、課題解決に向けての具体的な方策を考えるとともに、実践への心構えや指導の在り方などについて学ぶことにする。	1 生徒指導の意義と機能 2 生徒指導の課題 3 青年期と生徒理解 4～5 生徒指導の方法 (1) 生徒指導の方法原理 (2) 生徒指導の進め方と方法 ① 集団指導 ② 個別指導 (教育相談) 6 生徒指導計画と組織・役割 7 生徒指導と教育課程 8～9 生徒指導に関する事例研究 (いじめ、不登校、中退問題、校則問題等) 10 児童生徒に対する懲戒と体罰禁止 11 健康・安全に関する指導 12 在り方生き方教育と進路指導		
配付プリント等を用いて講義中心の授業を行うが、授業内容によってはディベートや討論・意見発表会、事例研究発表会等を開く予定である。したがって、学生諸君の主体的な授業参加を期待する。			
◆評価方法	◆テキスト、参考文献		
試験、研究活動・発表、レポート、出席状況等により総合的に評価する。	参考文献 『生徒指導の手引き』(文部省)、『個性を生かす進路指導をめざして』(文部省)		

《新カリ科目名》***** 《旧カリ科目名》*****		担当者	*****
◆講義目的、講義概要	◆授業計画		
◆評価方法			
◆テキスト、参考文献			

《新カリ科目名》	学校カウンセリング	担当者	瀧本 孝雄
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>まず初めにカウンセリングについての理論、技法等について全般的に学習する。</p> <p>次に学校カウンセリングの目標と方法に関して具体的に学習する。特にいじめ、校内暴力、非行、情緒障害等について、教育相談との関連において考察していく。さらに心理テストについて概説し、カウンセリングにおける心理テストの役割を考察したうえで、実際に心理テストを実施する。</p> <p>まずカウンセリングとは何かということについて全体的な知識を深める。次に、それをもとに、学校でカウンセリングをどのように利用し、それによって生徒にどのような意味や効果があるかについて他方面から検討していく。それらをふまえて、現在学校で問題となっている事柄、あるいは生徒自身の悩みを具体的にどのように解決していくかを考察する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>評価方法は講義、グループ・ワークに関しての小テスト、レポートおよび出席状況による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『新版カウンセリングと心理テスト』林潔他 ブレン出版</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 カウンセリングの目的とその意義について考察する。</li> <li>2 カウンセリングの理論について比較検討する。</li> <li>3 カウンセリングの技法について具体的な例をもとに講義する。</li> <li>4 学校カウンセリングの目的と特色について考察する。</li> <li>5 学校場面におけるカウンセリングの基本的実習を行う。</li> <li>6 学校カウンセリングの現状と学校カウンセラーの役割について考察する。</li> <li>7 非行、いじめ、登校拒否など現在学校で問題になっている行動について講義する。</li> <li>8 生徒の精神衛生 神経症、精神病、自殺などについて考察する。</li> <li>9 現代青年の悩み 現代青年の悩みを構造的に理解する。</li> <li>10 青年期の友人関係、親子関係、恋愛、性の諸問題について検討する。</li> <li>11 知能テスト、性格テストの理論と種類について講義する。</li> <li>12 心理テストの実施 性格テストを実施し自己理解を深める。</li> </ol>	

	*****	担当者	*****
<p>◆講義目的、講義概要</p> <div style="border: 1px solid black; height: 250px; width: 100%;"></div> <p>◆ 評価方法</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <p>◆テキスト、参考文献</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>		<p>◆授業計画</p> <div style="border: 1px solid black; height: 350px; width: 100%;"></div>	

	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

	学校カウンセリング	担当者	鈴木乙史
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>カウンセリングとは、「相談」活動であり、対人援助の方法の一つである。また、学校は、「教育」を通して個人の能力と人格発達を促進する場・機関である。学校に専門的なカウンセリングを導入することにより、個人個人が異なる生徒・学生の成長を、より有効に促進していこうとする考えが現れるのは当然であろう。</p> <p>講義では、カウンセリングの考え方、基本的な技法、学校でのニーズと問題点、いじめ・不登校などの対処法などを、講義、実習、討論などを通して検討していく。</p> <p>カウンセリングは、単に知識を持っているだけでは役に立たず、実際行うことができなければ意味を持たない。それゆえ基本的な実践力の獲得を目的としたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1, カウンセリングとは</li> <li>2, 話すことと聞くこと</li> <li>3, カウンセラーの役割と限界</li> <li>4, 学校という場・組織</li> <li>5, 生徒・学生の人格発達と課題</li> <li>6, 学校カウンセリングの効用と限界</li> <li>7, カウンセリングの実際 (1)</li> <li>8, カウンセリングの実際 (2)</li> <li>9, カウンセリングの実際 (3)</li> <li>10, いじめ</li> <li>11, 不登校</li> <li>12, まとめ</li> </ol>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">出席、授業中に出す課題、学期末レポートによる。</div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">テキストは用いず、適宜、参考文献一覧とプリントを配布する。</div>			



*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要	◆授業計画	
◆ 評価方法		
◆テキスト、参考文献		

《新カリ科目名》	学校カウンセリング	担当者	林 潔
◆講義目的、講義概要	◆授業計画		
<p>目的 カウンセリングの役割について理解します。そしてカウンセリングの基礎として <b>Rogers</b> の来談者中心カウンセリング、日常で使いやすいということから認知行動療法の基本について紹介します。</p> <p>カウンセリングには、積極的な意味もあることを理解して頂ければと思います。</p> <p>概要 愛情には、相手を支配する愛情と、支配しない愛情（第三者的な関わり）の2つのタイプがあります。そういうことから、生活の中におけるカウンセリングの役割について考えます。そしてカウンセリングのごく基本になる、2つのとりくみについて紹介します。 質問大歓迎です。 授業やカウンセリングについてのご質問は、次のメールも利用してください。 <b>hayashi@shiraume.ac.jp</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.なぜカウンセリング？ 日常的な相談の光と影。</li> <li>2.カウンセリングに行くのは弱い人たち？ 自分では気がつかない自分と言うこともありそうです。人は他の人との関係で自分に気づいていくのだという考え方があります。</li> <li>3.VTR「カウンセリングの進め方」 カウンセリングの役割について考えます。</li> <li>4.受理面接 相談に来た人の全体像をつかみます。</li> <li>5.来談者中心カウンセリングⅠ 戦後のわが国のカウンセリングについて大きな影響を与えた Rogers のカウンセリングについての紹介です。人格論と不応モデルについて。</li> <li>6.同 Ⅱ カウンセリングの方法。</li> <li>7.同 Ⅲ 気持をみつめ、はっきりさせていきます。</li> <li>8.認知行動療法Ⅰ 人が現実的なものの見方ができなくなった時に、適応上の問題が生まれます。Beck や Ellis のカウンセリングの取り組みです。</li> <li>9.同 Ⅱ 認知の歪みについて。</li> <li>10.同 Ⅲ 認知行動療法の方法。</li> </ol>		
◆ 評価方法	期末試験、小レポート、平常点評価します。		
◆テキスト、参考文献	特に使用しません。参考書は随時紹介します。		

<<新カリ科目名>>	学校カウンセリング	担当者	森川 正大
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>不登校、無気力、いじめ、自殺、非行、暴力行為など、教育現場には生徒の心にかかわる問題が山積している。また、学級崩壊、教師の問題行動など、教師の資質や心のあり方が問われることも多い。</p> <p>この科目は、学校カウンセリングの基礎的知識と技法を身につけることにより、教師としての資質向上を図ることを目標とする。</p> <p>内容の柱は、以下のとおり。</p> <p>①カウンセリングと学校カウンセリング          ②生徒理解と援助のポイント          ③カウンセリングの実際          ④カウンセリングの理論と技法          ⑤学校カウンセリングと心理テスト          ⑥保護者、校内組織その他の活用と連携</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、授業中に課す提出物、および期末レポートを総合して評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは用いない。プリントによる。参考文献は必要に応じて指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 カウンセリングと学校カウンセリング</li> <li>2 カウンセラーの役割、教師の役割</li> <li>3 生徒理解と援助のポイント(1)／紙上応答実習</li> <li>4 生徒理解と援助のポイント(2)／応答の点検</li> <li>5 カウンセリングの実際－テープを聞く－</li> <li>6 カウンセリングの実際－問題の焦点は？－</li> <li>7 カウンセリングの理論と技法(1)</li> <li>8 カウンセリングの理論と技法(2)</li> <li>9 カウンセリングの理論と技法(3)</li> <li>10 学校カウンセリングと心理テスト</li> <li>11 保護者への援助：コンサルテーション</li> <li>12 校内組織その他の活用と連携／まとめ</li> </ol>	

	* * * * *	担当者	* * * * *
<p>◆講義目的、講義概要</p> <div style="border: 1px solid black; height: 200px; width: 100%;"></div> <p>◆ 評価方法</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <p>◆テキスト、参考文献</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>		<p>◆授業計画</p> <div style="border: 1px solid black; height: 300px; width: 100%;"></div>	

《新カリ科目名》	総合演習	担当者	鳥谷部 志乃恵
<p><b>◆講義目的、講義概要</b></p> <p><b>講義目標</b> 小・中・高等学校の教育課程に導入された「総合的な学習の時間」についての目的・内容・方法等についての知識と技術を習得し、個別教科の領域を越えて指導することが出来るような経験カリキュラムや問題解決学習法を実践的に学習することを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 総合的な学習の時間の目的・内容・方法についての基本的な学習指導を行う。 現代社会の抱える課題について具体的な事例を通じて把握、分析、考察をする。 グループ学習、調査研究等を通じて、問題解決学習法を実践的に習得する。 研究テーマ調査結果のグループ発表を通じて、プレゼンテーション技術の習得を目指す。</p> <p>出席、グループ活動の成果、発表内容、レポート提出などによって総合判断をする。</p> <p><b>◆テキスト、参考文献</b></p> <p>テキストは特になし。 参考文献は、必要に応じて指示する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総合的な学習の時間が導入された趣旨</li> <li>2. 総合的な学習の時間の内容と方法の特質</li> <li>3. グループ編成と研究テーマの設定</li> <li>4. グループ研究（1）</li> <li>5. グループ研究（2）</li> <li>6. グループ研究（3）</li> <li>7. グループ研究（4）</li> <li>8. グループ研究（5）</li> <li>9. グループ研究（6）</li> <li>10. 研究成果の発表</li> <li>11. 研究成果の発表</li> <li>12. 各グループの発表に基づく全体討議</li> </ol> <p>* 春か秋の野外体験学習に必ず参加すること。</p>	

《新カリ科目名》	総合演習	担当者	鳥谷部 志乃恵
<p><b>◆講義目的、講義概要</b></p> <p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p> <p><b>◆テキスト、参考文献</b></p>		<p><b>◆授業計画</b></p>	

	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 200px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 200px;"></div>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

《新カリ科目名》	総合演習	担当者	安井一郎
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p><b>講義目的</b> 本講は、小・中・高の教育課程に新たに設けられた総合的な学習の時間において行われる教育活動の内容、方法及びその今日的な課題について考察することを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 本講では、中学校における総合的な学習の時間を想定し、そこで行われる体験的な学習活動のプランの作成、そのプランに基づく模擬的な学習活動の実践、体験学習終了後の学習評価及びグループ発表を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 総合演習の意義とねらい、グループ分け</li> <li>2 各グループにおけるテーマの設定(1)</li> <li>3 各グループにおけるテーマの設定(2)</li> <li>4 グループ研究(1)</li> <li>5 グループ研究(2)</li> <li>6 グループ研究(3)</li> <li>7 グループ研究(4)</li> <li>8 グループ研究(5)</li> <li>9 グループ研究(6)</li> <li>10 体験学習</li> <li>11 体験学習の評価・反省(1)</li> <li>12 体験学習の評価・反省(2)</li> </ol> <p>* 春か秋の総合演習体験学習に必ず参加すること</p>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">出席、課題、レポートによる総合評価</div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">講義の中で紹介する</div>			

《新カリ科目名》	総合演習	担当者	秋本 弘章
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>人類のかかえている諸課題について、多面的な視点から分析・検討する能力を養うとともに、これらの課題について個別教科の枠を超えて総合的な学習の時間で扱う方法を考える。</p> <p>本授業では、身近な問題を事例としながら考えていく。講義というよりは受講者が、グループ活動等で調べ、さまざまな形で発表するという形式で進める。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席・プレゼンテーション・レポート等を総合的に判断する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>授業中に個別に示される。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校教育における総合的学習の意義</li> <li>2 獨協大学から世界の課題を考える（環境）</li> <li>3 グループワーク（フィールドワーク）</li> <li>4 グループワーク</li> <li>5 グループワーク</li> <li>6 発表</li> <li>7 獨協大学から世界の課題を考える（福祉）</li> <li>8 グループワーク（体験学習）</li> <li>9 グループワーク</li> <li>10 グループワーク</li> <li>11 発表</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	

*****		担当者	*****
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

《新カリ科目名》	総合演習	担当者	渋谷 英章
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的        現代的な課題の中から、「国際理解」をとりあげ、資料収集、討議、発表などを通じて、「総合的な学習の時間」を自ら体験することを通して、その意義を理解するとともに、情報収集・情報検索やグループ学習の方法、プレゼンテーションの技術などの総合学習の指導方法を修得する。</p> <p>講義概要        ①「国際理解」の基本的課題について提示する。        ②「世界の子どもたちと日本の子どもたちの比較」を課題とし、学生各自が興味関心に応じてトピックを選び、トピックごとにグループを編成する。        ③グループごとに、まず外国の子どもたちの現状について情報収集、討議を行う。        ④つぎに、日本の子どもたちの現状について情報収集、討議を行う。        ⑤両者の比較検討を行い、グループごとにその検討の成果を発表する。        ⑥全体討議を行う。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 個人発表とグループ編成</li> <li>3 グループによる研究計画の作成</li> <li>4 研究計画発表</li> <li>5 グループ・ワーク</li> <li>6 中間発表</li> <li>7 グループ・ワーク</li> <li>8 グループ・ワーク</li> <li>9 グループ・ディスカッション</li> <li>10 グループ発表</li> <li>11 グループ発表</li> <li>12 全体討議</li> </ol> <p>* 春か秋の野外体験学習に参加すること</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>成果発表（グループ）と自己評価等のレポート（戸別に提出）、出席によって評価する。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>特になし</p>			

《新カリ科目名》	総合演習	担当者	渋谷 英章
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>		<p>◆授業計画</p>	
<p>◆ 評価方法</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p>			

	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

<<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	教育実習論（事前・事後指導） 教育実習Ⅰ（教育実習の事前・事後指導）	担当者	鳥谷部 志乃恵
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目標 教育実習の意義や目標、内容及び方法についての理解を深め、効果的で充実した教育実習が体験できるようにするための事前指導としての予備的で実際的な学習を目的とする。</p> <p>講義概要 次の事項について取り扱う。 教育実習の意義、目的。 教育実習の内容と方法 学校の組織と運営 実習生としての心得とサービスの在り方 授業への取り組みの方法と指導案作成。</p> <p>* 教育実習の事前指導であるから原則的に欠席は認められない。止むをえない事情によって欠席せざるを得ない場合は欠席届とレポート提出を求める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習の意義・目的について</li> <li>2. 教育実習の形態（観察・参加・実習）</li> <li>3. 学校の組織と運営</li> <li>4. 実習生の心得とサービスの在り方</li> <li>5. 教育実習の内容と方法</li> <li>6. 授業への取り組み（教材研究の方法）</li> <li>7. 授業への取り組み（指導案の構想）</li> <li>8. 発問・板書・授業形態・教材教具の工夫</li> <li>9. 指導案作成</li> <li>10. 指導案作成</li> <li>11. 指導案作成と模擬授業</li> <li>12. 指導案作成と模擬授業</li> </ol>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">         出席とレポート・指導案等の提出によって総合判断をする。       </div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">         教育実習の指針（獨協大学）       </div>			

<<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	教育実習論（事前・事後指導） 教育実習Ⅰ（教育実習の事前・事後指導）	担当者	安井一郎
<p><b>◆講義目的、講義概要</b></p> <p><b>講義目的</b>          本講は、教育実習の意義や目的、その概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を行うことにより、教育実習に向けての準備を進めることを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b>          教育実習は、これまで大学の教職課程で学んできたことの成果を、実習校での学校運営に教育実習生として直接参加することによって、具体的に実証する機会である。本講では、教育実習の事前指導として、教育実習に参加することの意義や目的、実習期間中の学校生活の概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を体験することにより、実習における学習のポイントを明確にする。また、実習生としての心構え、実習期間中の留意点等についてもふれ、教育実習に関する理解を深めていく。教育実習終了後には、自らの実習体験を振り返り、今後の学習課題を明らかにする。</p> <p>出席、レポート、試験による総合評価</p> <p><b>◆テキスト、参考文献</b></p> <p>『教育実習の指針』獨協大学、その他は、講義の中で紹介する。</p>		<p><b>◆授業計画</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育実習とは何か</li> <li>2 教育実習の概要</li> <li>3 学校の組織と教師の職務</li> <li>4 教材研究</li> <li>5 発問・板書</li> <li>6 生徒とのコミュニケーション</li> <li>7 評価</li> <li>8 学習指導案の作成(1)</li> <li>9 学習指導案の作成(2)</li> <li>10 模擬授業(1)</li> <li>11 模擬授業(2)</li> <li>12 教育実習期間中の諸注意</li> </ol>	

	* * * * *	担当者	* * * * *
<p><b>◆講義目的、講義概要</b></p> <p><b>◆ 評価方法</b></p>		<p><b>◆授業計画</b></p>	



*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要	◆授業計画	
◆ 評価方法		
◆テキスト、参考文献		

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	教育実習論（事前・事後指導） 教育実習Ⅰ（教育実習の事前・事後指導）	担当者	小川 一郎
◆講義目的、講義概要	◆授業計画		
<p><b>講義目的</b> 教育実習について、その概要を理解し、目的意識をもつてのぞめるようにする。そのため教育実習の意義や目的について、十分に理解させる。実習校に新風を吹き込み生徒に刺激を与えるために、実習にのぞむ心構え、生徒とのコミュニケーションのとり方などを重視し、授業を進める。さらに実習期間における仕事の内容を理解させ、十分に事前の準備ができるようにする。</p> <p><b>講義概要</b> 教育実習の意義・目的について 教師の仕事の性質について（教師と生徒の関係など） 教師の資質とその形成について 実習にのぞむための目的意識とその心構え 教壇実習の準備について（教材研究など） 学校の仕事の内容について 学校の現代的課題について 実習生の立場について</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>10. 教育実習Ⅰ・Ⅱが制度化された意義や目的について、また、この講座の概要について</li> <li>11. 教師の仕事の性質、教師の資質について</li> <li>12. 教育実習の意義・目的について 先輩実習生の感想、意見などについて</li> <li>13. 教育実習全般の事前の準備や実習校との連絡、実習期間、事後の対応。心得と準備について</li> <li>14. 教育実習の形態、(1)、観察、(2)参加、(3)教壇実習について</li> <li>15. 教育実習の仕事の内容、学校の教育活動の概要について</li> <li>16. 研究授業への対応、教材研究について、特に、教材研究には多くの時間を必要とするので、その自覚と心構えについて</li> <li>17. 学級担任としての学級経営と学級経営上の諸問題について</li> <li>18. 学級担任としての生徒指導、進路指導について、最近、いじめ、不登校、高校中途退学など対応のむずかしい問題が増加しているその対応について</li> <li>10. 生徒理解の方法と生徒とのコミュニケーションについて</li> <li>11. 教師として義務づけられている研修と法規について、教師としての服務や勤務など、必要な法規について</li> <li>12. 教育実習の記録、反省など教育実習日誌の記録や毎日の指導教官との報告、連絡、相談について</li> </ol>		
◆ 評価方法			
評価はレポートと授業への参加を考慮して決定する。			
◆テキスト、参考文献			
<p>テキスト 『教育実習の指針』（独協大学）</p> <p>参考文献 小川一郎編著『ホームルーム担当読本』文教書院</p>			

《新カリ科目名》***** 《旧カリ科目名》*****	担当者 *****
◆講義目的、講義概要	◆授業計画
◆評価方法	
◆テキスト、参考文献	

《新カリ科目名》教育実習論（事前・事後指導） 《旧カリ科目名》教育実習Ⅰ（教育実習の事前・事後指導）	担当者 小川 輝之
◆講義目的、講義概要 <p>教職課程教育のまとめであり、最大の関門でもある「教育実習」について、その意義と目的、内容と実際について学ぶことにする。また、学校教育が抱えている今日的な課題や教育改革の動向等について検討し、それを踏まえた指導の在り方を学ぶなど、教育実習の事前指導としての役割が十分果たせるよう工夫したい。</p> <p>学習指導案や評価問題等の作成、班別授業研究、教育課題検討会など、受講者中心の授業となるので主体的な授業参加を期待する。</p>	◆授業計画 <p>1～2 教育実習の意義と内容  ①教育実習の意義と目標  ②教育実習の内容</p> <p>3～4 学校教育が抱える今日的な教育課題と教師の役割  ①学習指導上の課題  ②生徒指導上の課題  ③学校・学級経営上の課題</p> <p>5～6 教育改革の動向と学校の組織・運営</p> <p>7～11 教育課程と学習指導要領  ①学習指導案・評価問題の作成  ②授業への取り組み  ③道徳、総合学習、特別活動、部活動への取り組み</p> <p>12 教育実習生としての心構え</p>
◆評価方法 出席状況、研究活動・発表、レポート等により総合的に評価する。	
◆テキスト、参考文献 テキスト 『教育実習の指針』（獨協大学）	

	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

《新カリ科目名》	教育実習論 II（事後指導）	担当者	鳥谷部 志乃恵
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目標 教育実習の反省を通じて、教師に求められる実践的指導力とは何であるかについて自らの経験から考察し、学習指導と生徒指導の両面から、各自が教職につくための学習課題を見出すことを目標として実践的指導を行う。</p> <p>講義概要 学習指導と生徒指導の両面から学習課題を見つけることができるように基本的な事柄を解説し、個々の学習者の実態に応じた実践的指導を徹底する。</p> <p>教材研究・指導案作成・模擬授業等の成果を総合的に判断する</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習の反省（1）</li> <li>2. 教育実習の反省（2）</li> <li>3. 教育実習体験の発表</li> <li>4. 教育実践に不可欠な能力とは何か</li> <li>5. 実習に欠けていたと思われるものは何か</li> <li>6. 教材研究</li> <li>7. 教材研究</li> <li>8. 指導案作成</li> <li>9. 指導案作成</li> <li>10. 指導案作成</li> <li>11. 模擬授業</li> <li>12. 模擬授業</li> </ol>	
◆テキスト、参考文献			
テキストは使用しない。参考文献は適宜指示する。			

	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 200px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 200px;"></div>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

《新カリ科目名》	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	安井一郎
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p><b>講義目的</b> 本講は、教育実習の事後指導として、教育実習の反省・フォローアップを行い、教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 本講では、教育実習の反省を行うとともに、教育実習の体験に基づいて、教職に向けての各自の学習課題を整理し、教師としての心得と職務、近年の教育改革の現状と学校が直面している諸問題についての理解を深めつつ、実践的指導力の形成を図ることによって、学校教育に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育実習の体験の発表</li> <li>2 教育実習レポートの作成</li> <li>3 発問</li> <li>4 板書</li> <li>5 各種資料及び機器の活用</li> <li>6 生徒とのコミュニケーション</li> <li>7 授業評価</li> <li>8 学習指導案の作成(1)</li> <li>9 学習指導案の作成(2)</li> <li>10 模擬授業(1)</li> <li>11 模擬授業(2)</li> <li>12 近年の教育改革の現状と課題</li> </ol>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">出席、課題、レポートによる総合評価</div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">『教育実習の指針』獨協大学、その他は、講義の中で紹介する</div>			

	介護ボランティアの理論と実践	担当者	川野 祐二
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>少子・超高齢化社会になる。介護が必要になっても、子供は親から離れて暮らし、仕事も忙しい。家族は支えられない。行政サービスだけでは、十分な支援ができない。介護を必要とする本人や家族は、爆発的に増える。</p> <p>そこに登場したボランティアの存在は、超高齢化社会を乗り切る妙薬となるのだろうか。人々の幸福を支え、暮らしを営む力となるだろうか。</p> <p>この授業は、NPO・NGOの解説をした後、ボランティアとはどのような人々であるのかを共に考える。いったい、彼らはなぜ活動するのだろうか。</p> <p>また、介護の現場で起きる人間関係と、福祉組織の特徴を知り、よりよいヒューマンサービスとは何かを考察する。それは、介護のみならず、人的サービスや労働することの全てに関わる問題であり、受講者の社会生活に直結することだろう。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, NPO・NGOの経緯と背景</li> <li>2, NPOにはどんなものがあるのか</li> <li>3, ボランティアの定義を試みる</li> <li>4, 互いに助け合う時代(があった)</li> <li>5, なぜボランティア活動をするのか</li> <li>6, 働くモチベーションを整理する</li> <li>7, 介護の仕事(ビデオ)</li> <li>8, 介護専門職とはどのような人たちか</li> <li>9, 在宅介護の人間関係</li> <li>10, 介護される側を考える</li> <li>11, 介護する側を考える</li> <li>12, ヒューマンサービス組織の特徴</li> </ol>	
<p>◆評価方法</p> <p>授業参加(出席・発言など)。レポート(2回を予定)。試験は行わない。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>特になし。ノートをしっかり取ること(レポートに必須)。</p>			

	*****	担当者	*****
<p>◆講義目的、講義概要</p>		<p>◆授業計画</p>	
<p>◆評価方法</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p>			

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	日本史概説Ⅰ（古中世） 日本史概説（通年）	担当者	會 田 康 範
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義では日本列島に展開した歴史を鳥瞰し、とりわけ前近代を素材にその時代像や歴史認識を豊かにするために重要と思われるテーマを取り上げる。さまざまな史料や文献等を提示しながら学問としての歴史学がこれまでに何を明らかにし、何を課題としているかなどに触れ、歴史を学ぶことの意味や歴史学と歴史教育の関係・あり方などについて考えてもらうことを目的としたい。</p> <p>極めて限られた時間数の中での講義のため、歴史経過にそって通史的に講義することは必要最低限にとどめるとともに、取り上げるテーマには時代的に多少の多寡があることも予め了承しておいていただきたい。できるだけエポック・メーカーな研究を各テーマに即して取り上げていく。</p> <p>高校までの歴史学習で習得した歴史の流れをふまえて授業にのぞむことが授業を退屈にさせないカギとなるだろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに（プロローグ）—日本史とは何か—</li> <li>2. 日本史の学び方—史料を科学する—</li> <li>3. 弥生のムラ—古代の社会①—</li> <li>4. ワカタケル大王の時代—古代の社会②—</li> <li>5. 木簡からみた貴族社会—古代の社会③—</li> <li>6. 絵図にみる中世の村</li> <li>7. 堺と十三湊—中世都市論—</li> <li>8. 洛中洛外図をよむ</li> <li>9. 豊臣の世から徳川の世へ</li> <li>10. 江戸図屏風をよむ</li> <li>11. 慶安の触書をめぐって</li> <li>12. まとめ—歴史を学ぶことの意味を再考する—</li> </ol> <p>なお、上記の計画は授業展開により変更されることもある。</p>	
◆ 評価方法			
出席状況と試験の結果を総合的に評価する。状況に応じて簡単なレポートを課すこともある。			
◆テキスト、参考文献			
特定のテキストは使用せず、プリントを配布する。参考文献は講義の中で紹介する。			

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	日本史概説Ⅱ（近現代） 日本史概説（通年）	担当者	會 田 康 範
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>日本史概説Ⅰに続くこの講義では、近現代を素材としていく。その際、対外関係を基軸に考察していくが、その前提となる前近代の対外関係についても扱うことになる。この講義を通じて、現代の国際化社会における日本のあり方、さらには歴史教育のあり方などをめぐって受講生とともに考えていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古代・中世の自国認識と他国認識①</li> <li>2. 古代・中世の自国認識と他国認識②</li> <li>3. 日本型華夷秩序の形成・展開①</li> <li>4. 日本型華夷秩序の形成・展開②</li> <li>5. 「鎖国」論をめぐって①</li> <li>6. 「鎖国」論をめぐって②</li> <li>7. 近代の対外認識①</li> <li>8. 近代の対外認識②</li> <li>9. 近代の対外認識③</li> <li>10. 国民国家形成の世紀を問う①</li> <li>11. 国民国家形成の世紀を問う②</li> <li>12. おわりに（エピローグ）—歴史学と歴史教育—</li> </ol> <p>なお、上記の計画は授業展開により変更されることもある。</p>	
◆ 評価方法			
出席状況と試験の結果を総合的に評価する。状況に応じて簡単なレポートを課すこともある。			
◆テキスト、参考文献			
特定のテキストは使用せず、プリントを配布する。参考文献は講義の中で紹介する。			

	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

<<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	外国史概説Ⅰ（東洋史） 外国史概説Ⅰ	担当者	兼田 信一郎
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>最近の中国事情を紹介し、その後中国の歴史、特に新石器時代から唐帝国滅亡までの歴史を概観する。</p> <p>1990年代以降の経済発展とそれに伴う社会の急激な変貌は、従来の中国社会像を根底から揺さぶり、我々に新たな中国認識の構築を迫っているように思える。</p> <p>一体、中国社会とはどのような社会なのか？ 中国古代史を概観しながらこの問題の一端に触れて見たい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、オリエンテーション</li> <li>2、現代中国事情（地理的概況など）</li> <li>3、現代中国事情（歴史的に見た中国社会の特徴）</li> <li>4、中華文明の形成（新石器時代殷・周）</li> <li>5、氏族社会の崩壊と小農民の登場（春秋・戦国）</li> <li>6、集権国家の構造と展開（秦漢帝国）</li> <li>7、豪族の台頭と社会の変質（後漢・三国）</li> <li>8、農民支配の再編（魏晋南北朝）</li> <li>9、律令国家の登場（唐）</li> <li>10、唐帝国の滅亡</li> <li>11、戦後日本における中国史研究の歩み（特に古代史研究を中心にして）</li> <li>12、戦後日本における中国史研究の歩み2（特に古代史研究を中心にして）</li> </ol>	
◆ 評価方法			
出席状況と試験により評価する			
◆テキスト、参考文献			
『グローバルワイド世界史図表』（第一学習社） 堀敏一著『中国通史』（講談社学術文庫）			

	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

《旧カリ科目名》	外国史概説Ⅱ	担当者	熊谷 哲也
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>(講義の目的)</p> <p>イスラーム世界の歴史について学ぶ。ある意味では、イスラーム世界は我々の視野から最も遠い世界と言えるかも知れない。そこに生きる人々について、我々の今日的な問題関心と、彼らの社会や文化に対する興味を掘り下げてみたい。</p> <p>(講義概要)</p> <p>歴史を学ぶ姿勢は、現代的な問題関心と表裏一体であるべきだ。ここではパレスチナ問題や旧ユーゴの問題、カスピ海周辺諸国の民族問題などを知ることによって、現代的な問題関心を掘り下げ、新聞やニュースなどを理解できるようにする。イスラームの教えにかんする基本的な知識もあわせて理解する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション。イスラームの基本事項について説明する。</li> <li>2 ユダヤ教・キリスト教とイスラーム教との関係について理解する。</li> <li>3 預言者によって建設された宗教共同体が、広大なイスラーム世界へと拡大する様相。</li> <li>4 イスラーム世界における近代化の問題を、西洋とのさまざまな関係から考える。</li> <li>5 パレスチナ問題① 第2次中東戦争まで。</li> <li>6 パレスチナ問題② 第4次中東戦争とその後について。</li> <li>7 旧ユーゴスラビアの民族問題① ボスニア紛争までの歴史を中心に。</li> <li>8 旧ユーゴスラビアの民族問題② コソボ紛争とNATOの問題。</li> <li>9 旧ソ連のカスピ海沿岸、中央アジア諸国の問題① 旧ソ連の崩壊まで。</li> <li>10 旧ソ連のカスピ海沿岸、中央アジア諸国の問題② 現在の諸問題を中心に。</li> <li>11 ポスト冷戦時代と、イスラーム諸国をめぐる様々な問題について。</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>毎回出席をとる。期末に試験。</p> </div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>とくにさだめない。授業で指示する。</p> </div>			





《旧カリ科目名》*****	担当者	*****
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p>	

《旧カリ科目名》外国史概説Ⅳ	担当者	久慈 栄志
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>ヨーロッパ諸国の「近代化」課程を、社会・文化・経済・宗教等の側面から考察する。「近代化」の特質とその功罪を検証し、明治以降の日本にいかなる影響を与えてきたか、という点もあわせて論じたい。</p> <p>16世紀頃～19世紀までの歴史事象の中から、ヨーロッパ圏内はもとより、周辺世界に対してもインパクトが大であった事項をピックアップして取り上げる。</p> <p>テキストは特に指定しないが、下記の参考文献中1～2冊は目を通してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大下尚一／西川正雄／服部春彦／望田幸男編 『西洋の歴史(近現代編)』(ミネルヴァ書房)</li> <li>・望田幸男編 『西洋の歴史基本用語集(近現代編)』(ミネルヴァ書房)</li> <li>・ウォーラステイン著 新版『史的システムとしての資本主義』(岩波書店)</li> <li>・堺 憲一 『あなたが歴史と出会うとき』(名古屋大学出版会)</li> </ul> <p>◆評価方法</p> <p>最終回の授業時(または定期試験期間中)に試験を実施。(論述形式、ノート等 持ち込み不可)</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>上記の参考文献を参照。</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 本講義の目的。歴史学の役割と学ぶ姿勢。</li> <li>2 ドイツと「獨逸学協会」 本学の前身である「獨逸学協会学校」についてその設立経緯と、めざしたものは何かを考える。</li> <li>3 歴史叙述・歴史理論の変遷(1) 古代から中世までについて解説する。</li> <li>4 歴史叙述・歴史理論の変遷(2) 近代以降について解説する。</li> <li>5 「近代」の概念について ヨーロッパ中心史観に起因する「近代」の概念について</li> <li>6 宗教改革 宗教改革にみる近代性と、インパクトについて。</li> <li>7 同上</li> <li>8 ルネサンス・大航海時代 価値観の転換と資本主義の胎動、ヨーロッパ優位の一体化。</li> <li>9 産業革命 拜金主義と社会の諸矛盾、社会主義運動の必然性について。</li> <li>10 同上</li> <li>11 「近代」総括 ヨーロッパにおける近代化過程を概観し、功罪を論ずる。</li> <li>12 予備</li> </ol>	

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	地理学概説Ⅰ（自然） 地理学概説（通年）	担当者	秋本 弘章
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>自然環境と人間のかかわりについて、地理学的観点から具体的な事例をもとに考察する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な自然環境の見方を身につける。</p> <p>本講義では、身近な地域の環境を自然地理学の観点から分析する基礎として、まず地形図の利用法を扱う。その後、関東地方の自然地理的な特色とその基盤の上に立った人々の生活について説明する。</p> <p>*講義科目ではあるが、実習等を行う予定である。色鉛筆、定規等指示された用具を準備すること。高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション（講義の概要）</li> <li>2.地形図利用の基礎(1) 地形図の基礎知識</li> <li>3.地形図利用の基礎(2) 距離と面積、等高線と地形</li> <li>4.地形図利用の基礎(3) 土地利用を読む</li> <li>5.東京・関東の地形的特色(1)山の手と下町</li> <li>6.東京・関東の地形的特色(2)武蔵野台地</li> <li>7.東京・関東の地形的特色(3)荒川と利根川の低地</li> <li>8.東京・関東の地形的特色(4)東京湾</li> <li>9.東京・関東の地形的特色(5)関東山地</li> <li>10.東京・関東の気候的特色(1)気候システムと気候のスケール</li> <li>11.東京・関東の気候的特色(2)観測データと景観から気候を読む</li> <li>12.東京・関東の気候的特色(3)都市気候</li> </ol>	
◆ 評価方法			
試験とレポート（小課題）、出席状況			
◆テキスト、参考文献			
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。			

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	地理学概説Ⅱ（人文） 地理学概説（通年）	担当者	秋本 弘章
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>地理学の基本的概念を理解し、これらの概念を用いて、どのような研究が行われているかを展望する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な人文地理学の見方・考え方を身につける。</p> <p>本講義では、地理的知識の拡大と地理学の歴史を述べた後、地理学の主要概念のうち「環境」「立地」「伝播」「景観」について解説する。さらに、人文地理学のいくつかのテーマを取り上げ理解の深化を図る。</p> <p>*高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.地理学の歴史（1）</li> <li>2.地理学の歴史（2）</li> <li>3.地理学の歴史（3）</li> <li>4.地理学の主要概念（1）環境</li> <li>5.地理学の主要概念（2）立地</li> <li>6.地理学の主要概念（3）景観</li> <li>7.地理学の主要概念（4）伝播</li> <li>8.地理学のトピックス（1）現代の地図</li> <li>9.地理学のトピックス（2）メンタルマップ</li> <li>10.地理学のトピックス（3）時間地理学</li> <li>11.地理学のトピックス（4）教育と地理学</li> <li>12.まとめ</li> </ol>	
◆ 評価方法			
試験とレポート（小課題）、出席状況			
◆テキスト、参考文献			
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。			

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	地誌学概説Ⅰ（日本） 地誌学概説Ⅰ	担当者	秋本 弘章
<b>◆講義目的、講義概要</b> <p>特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。地誌学における主要概念である「地域」と地域分析法を理解した上で、日本を事例地域として地誌学的見方を身につけることを目的とする。</p> <p>本講義では、地誌学の方法、「地域」概念について講義した後、地域を扱う上で必要な文献や統計の収集法や利用法、統計分析など地域分析の手法を習得する。その上で、日本地誌を扱う。</p> <p>*受講者は地図帳を持参すること。講義科目であるが、実習を含むので、色鉛筆、電卓等授業中に指示された用具は各自用意すること。</p> <p>高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<b>◆授業計画</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション—系統地理学と地誌学</li> <li>2. 「地域」の概念</li> <li>3. 地域分析の基礎（1）文献・資料・統計の所在と検索</li> <li>4. 地域分析の基礎（2）統計の利用</li> <li>5. 地域分析の基礎（3）統計の地図表現</li> <li>6. 地域分析の基礎（4）空間分析</li> <li>7. 地域分析の基礎（5）地域構造</li> <li>8. 日本地誌（1）自然環境</li> <li>9. 日本地誌（2）風土と地域文化</li> <li>10. 日本地誌（3）人口分布と人口構造</li> <li>11. 日本地誌（4）産業と地域変容</li> <li>12. 日本地誌（5）日本の地域構造</li> </ol>	
<b>◆ 評価方法</b> <p>試験とレポート（小課題）、出席状況</p>			
<b>◆テキスト、参考文献</b> <p>テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。</p>			

《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	地誌学概説Ⅱ（世界） 地誌学概説Ⅱ	担当者	秋本 弘章
<b>◆講義目的、講義概要</b> <p>特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。本講義では、世界の地域構造を概観したのち、ヨーロッパを事例地域としてとりあげ、地誌的見方を身につけることを目的とする。</p> <p>*受講者は地図帳を持参すること。</p> <p>高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<b>◆授業計画</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の見方</li> <li>2. 世界の地域構造とその変容（1）自然的基盤</li> <li>3. 世界の地域構造とその変容（2）文化圏</li> <li>4. 世界の地域構造とその変容（3）国家と経済</li> <li>5. ヨーロッパ地誌（1）ヨーロッパとは</li> <li>6. ヨーロッパ地誌（2）自然景観</li> <li>7. ヨーロッパ地誌（3）文化景観 都市と農村</li> <li>8. ヨーロッパ地誌（4）文化の諸相（1）</li> <li>9. ヨーロッパ地誌（5）文化の諸相（2）</li> <li>10. ヨーロッパ地誌（6）産業と経済</li> <li>11. ヨーロッパ地誌（7）国家とEU</li> <li>12. ヨーロッパ地誌（8）地域構造</li> </ol>	
<b>◆ 評価方法</b> <p>試験とレポート（小課題）、出席状況</p>			
<b>◆テキスト、参考文献</b> <p>テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。</p>			

《03 以降科目名》 《新カリ科目名》	法律学概説Ⅰ 法律学概説（通年）	担当者	内山 良雄
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在し、社会内で生起する紛争の未然防止・解決に指針を与え、その平穏・円滑な営みを支えている。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁であることはありえない。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合も冷静かつ的確に対応することが必要となるが、そのためには法的素養を備えていることが強く求められるのである。</p> <p>そこで本講義では、まず最初に法の基本概念を解説したうえで、主として憲法に規定された基本原理や人権についての議論を概観する。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていきたい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験の答案に基づいて評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>大谷實編著『エッセンシャル法学』成文堂 コンパクトな六法を必ず携行すること。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 法とは何か</li> <li>3. 法学とは何か</li> <li>4. 法の学び方</li> <li>5. 法体系の枠組みと法の分類</li> <li>6. 憲法の基本原理（1）－国民主権－</li> <li>7. 憲法の基本原理（2）－平和主義、基本的人権尊重主義－</li> <li>8. 国の統治機構</li> <li>9. 平等権</li> <li>10. 自由権（1）－精神的自由・経済的自由－</li> <li>11. 自由権（2）－人身の自由－</li> <li>12. 社会権</li> </ol> <p>* 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがある。進度が遅れた場合、補講を行うことがある。あらかじめご了承ください。</p>	

《03 以降科目名》 《新カリ科目名》	法律学概説Ⅱ 法律学概説（通年）	担当者	内山 良雄
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在し、社会内で生起する紛争の未然防止・解決に指針を与え、その平穏・円滑な営みを支えている。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁であることはありえない。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合も冷静かつ的確に対応することが必要となるが、そのためには法的素養を備えていることが強く求められるのである。</p> <p>そこで本講義では、社会のさまざまな場面と法との関わり合いについての議論を概観する。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていきたい。法の基本的な事柄は、「法律学概説Ⅰ」で取り扱うので、「法律学概説Ⅰ」を受講してから本講義を受講することが望ましい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験の答案に基づいて評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>大谷實編著『エッセンシャル法学』成文堂 コンパクトな六法を必ず携行すること。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 裁判の仕組み</li> <li>2. 財産関係と法</li> <li>3. 経済取引と法</li> <li>4. 家族と法</li> <li>5. 犯罪と法</li> <li>6. 刑罰と法</li> <li>7. 労働と法</li> <li>8. 事故と法</li> <li>9. 社会保障・社会福祉</li> <li>10. 医療と法（1）－医療提供の理念－</li> <li>11. 医療と法（2）－医療過誤－</li> <li>12. 情報化社会と法</li> </ol> <p>* 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがある。進度が遅れた場合、補講を行うことがある。あらかじめご了承ください。</p>	

《03以降科目名》 《新カリ科目名》	政治学概説Ⅰ 政治学概説（通年）	担当者	杉田 孝夫
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>わたしたち市民の教養としての政治学という実践的課題を意識した講義をする。デモクラシーにおける統治という枠組のもとで、政治の課題、統治の構成原理、デモクラシーを支えるものについて、検討する。なお下記のテキストを予習復習用の教科書として用いる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末試験の筆記試験によって評価する。</p> <p>◆ テキスト</p> <p>久米・川出・古城・田中・真淵『政治学』（New Liberal Arts Selection）有斐閣, 2003.</p> <p>◆ 参考文献</p> <p>有賀弘・阿部齊・齋藤真『政治-個人と統合』（第2版）（UP選書, 東京大学出版会）1994.          伊藤光利（編）『ポリティカル・サイエンス事始め』（新版）有斐閣, 2003.          マックス・ウェーバー『職業としての政治』（岩波文庫）</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに なにがデモクラシーを支えるのか</li> <li>2. 政策の対立軸</li> <li>3. 政治と経済</li> <li>4. 自由と自由主義</li> <li>5. 福祉国家</li> <li>6. 国家と権力</li> <li>7. 市民社会と国民国家</li> <li>8. 国内社会と国際関係</li> <li>9. 国際関係における安全保障</li> <li>10. 国際関係における富の配分</li> <li>11. 議会</li> <li>12. 執行部</li> <li>13. 官僚制</li> </ol>	

《03以降科目名》 《新カリ科目名》	政治学概説Ⅱ 政治学概説（通年）	担当者	杉田 孝夫
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>わたしたち市民の教養としての政治学という実践的課題を意識した講義をする。デモクラシーにおける統治という枠組のもとで、政治の課題、統治の構成原理、デモクラシーを支えるものについて、検討する。なお下記のテキストを予習復習用の教科書として用いる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末試験の成績によって評価する。</p> <p>◆ テキスト</p> <p>久米・川出・古城・田中・真淵『政治学』（New Liberal Arts Selection）有斐閣, 2003.</p> <p>◆ 参考文献</p> <p>有賀弘・阿部齊・齋藤真『政治-個人と統合』（第2版）（UP選書, 東京大学出版会）1994.          伊藤光利（編）『ポリティカル・サイエンス事始め』（新版）有斐閣, 2003.          マックス・ウェーバー『職業としての政治』（岩波文庫）</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中央地方関係</li> <li>2. 国際制度</li> <li>3. 政策過程</li> <li>4. 対外政策の形成</li> <li>5. 制度と政策</li> <li>6. デモクラシー</li> <li>7. 投票行動</li> <li>8. 政治の心理</li> <li>9. 世論とメディア</li> <li>10. 選挙と政治参加</li> <li>11. 利益団体と政治</li> <li>12. 政党</li> </ol>	

《03以降科目名》 《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	社会学概説Ⅰ 社会学概説（通年） 社会学概論（通年）	担当者	有吉 広介
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目的は、中学・高校の社会教育のなかで取り上げられている社会学的知識・説明・解釈を中心として、現代の社会生活を理解するのに必要な考え方を講義する。</p> <p>春学期の講義の概要は、社会的存在としての人間の諸相を考えるための基本的な考え方を取り上げて、まず、人間の社会行動の特性と、そこにみられる人間、社会、および文化の相互関係を考察する。ついで、社会集団一般および家族集団の構造と機能を問題にする。引き続いて、近代から現代にわたって展開してきた社会の産業化、都市化・合理化、官僚制化、民主化、中央集権化、大衆化、および職業社会の諸現象について逐次ふれながら、現代社会の社会問題の基礎を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会行動および人間・社会・文化の相互関係</li> <li>2. 社会集団の構造と機能</li> <li>3. 家族の構造と機能（1）</li> <li>4. 家族の構造と機能（2）</li> <li>5. 社会の産業化（1）</li> <li>6. 社会の産業化（2）</li> <li>7. 都市化社会</li> <li>8. 社会の合理化・官僚制化</li> <li>9. 民主化・中央集権化・大衆化</li> <li>10. 職業の社会構造（1）</li> <li>11. 職業の社会構造（2）</li> <li>12. 講義の補足</li> </ol>	
◆ 評価方法			
<p>学期末などでのレポートで評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>講義の理解に必要なプリントや資料は毎回配布する。 参考文献は適時紹介</p>			

《03以降科目名》 《新カリ科目名》 《旧カリ科目名》	社会学概説Ⅱ 社会学概説（通年） 社会学概論（通年）	担当者	有吉 広介
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目的は春学期と同じである。</p> <p>秋学期の講義の概要は、社会の階層構造および日本人の階層意識、産業社会における教育の社会構造と日本の学歴社会、脱工業社会、少子高齢社会、生活の質のアプローチ、および社会のグローバリゼーションの諸項目について、現代の社会生活を分析する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会の階層化・流動化</li> <li>2. 日本人の階級意識</li> <li>3. 教育の社会構造</li> <li>4. 日本の近代化と学歴社会</li> <li>5. 脱工業化社会</li> <li>6. 少子高齢社会</li> <li>7. 高齢社会の者問題</li> <li>8. 少子社会の諸問題</li> <li>9. 生活の質の視点からの社会の分析</li> <li>10. 社会のグローバリゼーション（1）</li> <li>11. 社会のグローバリゼーション（2）</li> <li>12. 講義の補足</li> </ol>	
◆ 評価方法			
<p>期末などでのレポートで評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>講義の理解に必要なプリントや資料は毎回配布する。 参考文献は適時紹介</p>			

《03以降科目名》哲学概説Ⅰ 《新カリ科目名》哲学概説（通年） 《旧カリ科目名》哲学概説（通年）	担当者 河口 伸
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>昨今、哲学の復権が唱えられ、自分探しの一環として哲学が一種の流行となっているが、それらをも包摂し相対化する視点こそが、今求められている。一般教養としての哲学史的知識も教職に必要であるが、教師として以前に、一人の人間として真摯に生きるために「哲学」が持つ意義を考えてもらいたい。西欧思想を歴史的に辿ることが、本講義の概要であるが、そこには二つの偏りが存在していることを意識しつつ論じて行きたい。西欧哲学としての偏りと明治以降の輸入哲学としての偏りである。哲学を、ギリシア起源の「学」としてのみ捉えるのではなく、幅広く「思想」として捉え、政治・社会・宗教・歴史・科学等への影響をも視野に入れて論じたい。</p> <p>個々の思想家の経歴や思想の細部の紹介は、テキストに譲り、彼らとその思想を形成した動機や課題、歴史的な位置付けなどを</p> <p>◆評価方法 重視して論じる。</p> <p>レポート、出席点を 試験の点に加算（出席は2/3以上必要）</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『精神史としての哲学史』角田幸彦編 東信堂 文献は随時紹介する</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 哲学とは何か（1）</li> <li>2 ソクラテス以前</li> <li>3 ソクラテス</li> <li>4 プラトン</li> <li>5 アリストテレス</li> <li>6 スコラ哲学</li> <li>7 科学革命</li> <li>8 ルネサンスと宗教改革</li> <li>9 合理論と経験論（1）</li> <li>10 合理論と経験論（2）</li> <li>11 社会契約説</li> <li>12 啓蒙主義</li> </ol>

《03以降科目名》哲学概説Ⅱ 《新カリ科目名》哲学概説（通年） 《旧カリ科目名》哲学概説（通年）	担当者 河口 伸
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期に同じ</p> <p>◆評価方法</p> <p>レポート、出席点を 試験の点に加算（出席は2/3以上必要）</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『精神史としての哲学史』角田幸彦編 東信堂 文献は随時紹介する</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 カント</li> <li>2 ドイツ観念論</li> <li>3 キルケゴール</li> <li>4 ニーチェ</li> <li>5 マルクス</li> <li>6 フッサール・ハイデッガー・</li> <li>7 ヤスパーズ（1）（2）</li> <li>8 歴史主義・解釈学</li> <li>9 ウィトゲンシュタイン</li> <li>10 構造主義</li> <li>11 言語哲学</li> <li>12 哲学とは何か（2）</li> </ol>



<<03以降科目名>> <<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	倫理学概説 I 倫理学概説 (通年) 倫理学概論 (通年)	担当者	鳥谷部 志乃恵
<b>◆講義目的、講義概要</b>		<b>◆授業計画</b>	
<p><b>講義目標</b>          高等学校における公民科の中で、「倫理」について指導するためには、倫理学についての体系的知識と現代社会の抱える倫理の課題について考察する訓練が必要不可欠である。そのために必要不可欠な倫理学の基礎概念と今日の社会が抱える倫理的課題について分析考察することを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b>          倫理学とはどのような学問であるのか西欧の思想に基づいて体系的に明らかにする。          倫理学の主要な概念について思想史上重要な学説を手懸りとして考察する。          今日の人類社会が抱える様々な倫理的課題を明らかにして、その問題解決の方策を倫理的視点から考察分析する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理学とはどういう学問か</li> <li>2. 人間の社会を秩序づける理法</li> <li>3. 個別と普遍における矛盾と調和</li> <li>4. 善と悪をめぐる倫理的立場の類型</li> <li>5. 倫理的行為の評価の類型</li> <li>6. 道徳と幸福、道徳と義務の問題</li> <li>7. 人間は自然をどう見てきたか</li> <li>8. ロゴスと自然</li> <li>9. 機械論的自然観</li> <li>10. 物理学と生物学をめぐる現代の自然観</li> <li>11. 労働と自然</li> <li>12. エコロジー的地球像と民衆の自然</li> </ol>	
レポートの提出と定期試験と指導案の提出によって総合判断する			
<b>◆テキスト、参考文献</b>			
テキストは使用しない。 参考文献は必要に応じて指示する。			

<<03以降科目名>> <<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	倫理学概説 II 倫理学概説 (通年) 倫理学概論 (通年)	担当者	鳥谷部 志乃恵
<b>◆講義目的、講義概要</b>		<b>◆授業計画</b>	
<p><b>講義目標</b>          高等学校における公民科の中で、「倫理」について指導するためには、倫理学についての体系的知識と現代社会の抱える倫理の課題について考察する訓練が必要不可欠である。そのために必要不可欠な倫理学の基礎概念と今日の社会が抱える倫理的課題について分析考察することを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b>          倫理学とはどのような学問であるのか西欧の思想に基づいて体系的に明らかにする。          倫理学の主要な概念について思想史上重要な学説を手懸りとして考察する。          今日の人類社会が抱える様々な倫理的課題を明らかにして、その問題解決の方策を倫理</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界をどう捉えるか</li> <li>2. 世界における人間の位置</li> <li>3. 人類社会の抱える倫理的諸問題</li> <li>4. 物質と生命の相克を齎した医療技術の進歩</li> <li>5. 科学と宗教の相克を齎した生命倫理の問題</li> <li>6. 医療と教育の先進諸国と発展途上国の格差</li> <li>7. 国連とNGOの果たす役割</li> <li>8. 情報社会における倫理</li> <li>9. 自由主義の時代の光と影の問題</li> <li>10. 生命倫理と環境倫理</li> <li>11. 人口問題・食糧問題・天然資源の枯渇</li> <li>12. コスモロジーとエコロジーの視点の重要性</li> </ol>	
<b>◆ 評価方法</b>			
レポートの提出と定期試験と指導案の提出によって総合判断する			
<b>◆テキスト、参考文献</b>			
テキストは使用しない。 参考文献は必要に応じて指示する。			

《03以降科目名》宗教学概説Ⅰ 《新カリ科目名》宗教学概説(通年) 《旧カリ科目名》宗教学概論(通年)	担当者	河口 伸
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>戦後教育が宗教について意識的に或いは無意識的に避け続けてきた為、現代の日本人は宗教に関して一種の「真空状態」に置かれており、そこから様々な問題が昨今生じて来ている。そこで本講義は、宗教学の学的体系性よりも、むしろ諸宗教の歴史と現在についての一般的概括的知識を得られるようにすることを重点とする。更に教職科目であることにも鑑み、宗教教育のあり方についても論じたい。</p> <p>前期は、洋の東西、今昔を問わず世界史上の諸宗教の歴史と現在について説明し、宗教の果たして来た役割・問題点について考えてもらう。</p> <p>◆評価方法</p> <p>レポート、出席点を 試験の点に加算(出席は2/3以上必要)</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『世界がわかる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 筑摩書房 文献は随時紹介する</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 宗教とは何か(1)</li> <li>2 神話と宗教</li> <li>3 ユダヤ教</li> <li>4 キリスト教(1)</li> <li>5 キリスト教(2)</li> <li>6 キリスト教(3)</li> <li>7 イスラム教(1)</li> <li>8 イスラム教(2)</li> <li>9 仏教(1)</li> <li>10 仏教(2)</li> <li>11 ヒンドウ教</li> <li>12 儒教</li> </ol>	

《03以降科目名》宗教学概説Ⅱ 《新カリ科目名》宗教学概説(通年) 《旧カリ科目名》宗教学概論(通年)	担当者	河口 伸
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的は前期に同じ。後期は、日本の宗教の歴史と、日本人の宗教的心性の形成にまず触れ、その後に宗教的諸概念についての理解を深め、日本や欧米の先進諸国において宗教集団が現在持っている意義や問題点を論じた上で、宗教教育の是非・可能性を論じる。</p> <p>◆評価方法</p> <p>レポート、出席点を 試験の点に加算(出席は2/3以上必要)</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『世界がわかる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 筑摩書房 文献は随時紹介する</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 道教</li> <li>2 日本の宗教の歴史と現在(1)</li> <li>3 日本の宗教の歴史と現在(2)</li> <li>4 日本の宗教の歴史と現在(3)</li> <li>5 宗教上の諸概念(儀礼、戒律、修行など)(1)(2)</li> <li>7 宗教集団の諸問題(1)</li> <li>8 宗教集団の諸問題(2)</li> <li>9 学校教育と宗教(1)</li> <li>10 学校教育と宗教(2)</li> <li>11 宗教とは何か(2)</li> <li>12 宗教学の課題</li> </ol>	

<<03以降科目名>> <<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	心理学概説Ⅰ 心理学概説（通年） 心理学概論（通年）	担当者 田口 雅徳
<b>◆講義目的、講義概要</b> <p>教職において必要とされる心理学の基本的知見について理解を深めていただきたい。そこで、まず心理学の歴史的展開をみながら、現代においても大きな影響力をもつ心理学の重要な概念や理論を概説していく。さらに、各発達期の特徴と発達課題について述べ、最後に発達と学習に関する問題を講義していく。</p>		<b>◆授業計画</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学の領域</li> <li>2. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学と近代の心理学</li> <li>3. 心理学のあゆみ②：現代心理学の誕生</li> <li>4. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学</li> <li>5. 心理学のあゆみ④：精神分析理論</li> <li>6. 発達①：発達の規定因</li> <li>7. 発達②：乳幼児期の発達</li> <li>8. 発達③：児童期・青年期の発達</li> <li>9. 発達④：青年期以降の発達</li> <li>10. 発達⑤：個の発達と学習</li> <li>11. 学習理論①：条件づけ理論</li> <li>12. 学習理論②：様々な学習と行動の変容</li> </ol>
<b>◆ 評価方法</b> 出席，レポート，試験により評価をおこなう。		
<b>◆テキスト、参考文献</b> テキストはとくに使用しない。プリントによる。参考文献は授業において指示する。		

<<03以降科目名>> <<新カリ科目名>> <<旧カリ科目名>>	心理学概説Ⅱ 心理学概説（通年） 心理学概論（通年）	担当者 田口雅徳
<b>◆講義目的、講義概要</b> <p>教職において必要とされる心理学の基本的知見について理解を深めていただきたい。後期（心理学概説Ⅱ）では、「現代社会と人々の適応」について論じていく。まず、社会への適応についてみていくための基礎知識として、人格理論について講義をする。つぎに、ストレスについてとりあげ、ストレスによる障害とその対応などを論じ、社会への人々の適応について深く考えていきたい。</p>		<b>◆授業計画</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境への適応を考える視点</li> <li>2. 人格理論①：類型論と特性論</li> <li>3. 人格理論②：性格の構造と形成</li> <li>4. 人格理論③：人格の測定</li> <li>5. 人格理論④：人格の変容</li> <li>6. 人格理論⑤：ストレスと性格</li> <li>7. 現代社会と適応①：ストレスの生起過程</li> <li>8. 現代社会と適応②：ストレスによる障害①</li> <li>9. 現代社会と適応③：ストレスによる障害②</li> <li>10. 現代社会と適応④：ストレスへの対処①</li> <li>11. 現代社会と適応④：ストレスへの対処②</li> <li>12. 社会への適応とは？</li> </ol>
<b>◆ 評価方法</b> 出席とレポート，試験により評価をおこなう。		
<b>◆テキスト、参考文献</b> テキストはとくに使用しない。プリントによる。参考文献は授業において指示する。		

	<b>図書館概論</b>	担当者	井上 靖代
--	--------------	-----	-------

◆講義目的、講義概要

図書館・情報センターとはどのような仕事をするところなのか、まず確認していく概論の科目である。地方公共団体が設置する公立図書館で働く専門職「司書」の業務内容とその使命、意義などを認識し、図書館が地域社会のなかで果たす役割を明確にしていく。さらに、IT革命といわれる情報社会のなかでの図書館の現在位置、将来展望を歴史的記憶をたどりながら、確認し、考えていく。

司書課程MLを活用するので、大学等でメール・アドレスを取得しておくこと。

◆ 評価方法

出席点(12×3=36%)レポート(30%)試験(30%)により評価する。

◆テキスト、参考文献

塩見昇編著『図書館概論 三訂版』日本図書館協会、2001年

◆授業計画

- 1 現代社会と図書館(1)
  - “図書館”とはなにか。民主主義社会と図書館-
- 2 図書館法規と行政
  - 憲法と図書館法、公立図書館と公共図書館-
- 3 現代社会と図書館(2)
  - 生涯学習社会・情報社会と図書館-
- 4 図書館の歴史的展開
  - 図書館史。図書館にも歴史がある。-
- 5 図書館の理念(1)
  - 人々の知る自由と権利の保障機関としての図書館。図書館と知的自由、表現の自由-
- 6 図書館の理念(2)-図書館員の専門性-
- 7 図書館の実務
  - 貸本屋ではない図書館、図書館の4要素-
- 8 地域社会と公共図書館
  - 地域資料・行政資料の提供-
- 9 地域社会と学校図書館
  - 学校教育の変貌と学校図書館メディア・センターの役割-
- 10 地域社会と大学図書館
  - 学術情報センターとしての大学図書館の役割-
- 11 国立国会図書館、専門図書館など
  - 多様な図書館の存在-
- 12 図書館ネットワーク
  - 図書館とはさみは使しよう・・・-

	*****	担当者	*****
--	-------	-----	-------

◆講義目的、講義概要

◆ 評価方法

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

03 年度以降(春) 02 年度以前(通年)	図書館サービス論 図書館サービス経営論(通年)	担当者	井上 靖代
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに各種サービスの特質を明らかにする。 なお、この科目は「図書館概論」での理解をふまえて、さらに具体的な図書館活動の内容について、より深く学習する科目である。</p> <p>司書課程MLを活用するので、大学等でメール・アドレスを取得しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 図書館サービスの意義</li> <li>2 来館者へのサービス <ul style="list-style-type: none"> <li>－貸出、利用援助など－</li> </ul> </li> <li>3 資料提供の基礎</li> <li>4 資料提供の展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>－著作権法と図書館－</li> </ul> </li> <li>5 情報提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>－レファレンス・サービス(参考調査業務)－</li> </ul> </li> <li>6 集会・文化活動、行事など</li> <li>7 利用対象者別サービス</li> <li>8 多様な利用者サービス <ul style="list-style-type: none"> <li>－図書館利用を阻害されている人々へのサービス－</li> </ul> </li> <li>9 利用者の交流の場としての図書</li> <li>10 図書館マーケティング活動</li> <li>11 図書館サービスと図書館員・司書</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
◆ 評価方法			
出席(12×2=24%) 小レポート(20%) テスト(56%)により評価する。			
◆テキスト、参考文献			
『図書館ハンドブック』第5版 日本図書館協会編・発行、1990年			

03 年度以降(秋) 02 年度以前(通年)	図書館経営論 図書館サービス経営論(通年)	担当者	井上 靖代
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>公立図書館を中心として、その図書館活動の実務を理解し、情報資料・人的資源の効率よい図書館経営とは何か、図書館経営に関わる組織・管理・運営、各種計画などについて理解する。また、その活動評価についても考えていく。 なお、この科目は「図書館概論」での理解をふまえて、さらに具体的な図書館活動の内容について、より深く学習する科目である。</p> <p>グループ・ディスカッションを通じて、さまざまなケース・スタディを行っていく。したがって、実際に図書館を頻繁に活用してもらうことになる。</p> <p>司書課程MLを活用するので、大学等でメール・アドレスを取得しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公共図書館の使命と任務 <ul style="list-style-type: none"> <li>－図書館経営の在り方－</li> </ul> </li> <li>2 自治体行政と図書館 <ul style="list-style-type: none"> <li>－図書館の組織と管理・運営－</li> </ul> </li> <li>3 資料管理と運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>－図書館と知的自由(1)－</li> </ul> </li> <li>4 資料管理と運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>－図書館と知的自由(2)－</li> </ul> </li> <li>5 資料管理と運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>－図書館と知的自由(3)－</li> </ul> </li> <li>6 図書館経営とシステム運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>－人事管理; 図書館長・館員の責務及び養成・研修、ボランティアの養成・活用・問題点など－</li> </ul> </li> <li>7 施設管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>－施設・設備と図書館利用－</li> </ul> </li> <li>8 図書館サービス計画の意義と方法</li> <li>9 図書館調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>－アンケート調査、統計分析・評価(1)－</li> </ul> </li> <li>10 図書館調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>－アンケート調査、統計分析・評価(2)－</li> </ul> </li> <li>11 情報ネットワーク形成の意義と方法</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
◆ 評価方法			
出席点(12×2=24%)レポート(5回、76%)により評価する。			
◆テキスト、参考文献			
『図書館ハンドブック』第5版 日本図書館協会編・発行、1990年			

《03以降科目名》 《02以前科目名》	情報サービス論 a 情報サービス論（通年）	担当者	福田 求
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【注意】受講者の抽選を行う。詳細は教務課からの説明資料（時間割表、掲示等）を参照し、不明な点があれば教務課経済学部窓口で確認すること。</p> <p>【目的】本講義での情報サービスとは、図書館の情報提供機能を具体化するサービス全般のことをいうが、これにはレファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、さらにはCD-ROMやオンラインの検索サービス等、さまざまなサービスが含まれる。本講義ではこの情報サービスの総合的な理解を目指し、情報サービスに関する解説と演習を行う。</p> <p>【概要】前期では、図書館の情報サービスについての基本的な事項を解説する。また後期においては主に、情報サービス(特にレファレンスサービス)の実践的能力を養成するために、参考図書等さまざまな情報源を用いた検索および回答の実習を行う。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末試験。これに平常点(実習への参加態度等)を加味する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>適宜指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 受講者の確認・決定。年間予定、授業方法等について説明。</li> <li>2 情報サービスの概要と実際（ビデオ鑑賞等）</li> <li>3 レファレンスサービス</li> <li>4 利用案内、レフェラルサービス</li> <li>5 カレントアウェアネスサービス、検索サービス</li> <li>6 前半部分のまとめ。質問受付。</li> <li>7 発展的情報サービス</li> <li>8 情報サービスで用いる情報源の類別</li> <li>9 レファレンスコレクションの構築・評価</li> <li>10 情報サービスにおけるコミュニケーション</li> <li>11 最新の情報サービス(a)</li> <li>12 授業全体のまとめ。質問受付。</li> </ol>	

《03以降科目名》 《02以前科目名》	情報サービス論 b 情報サービス論（通年）	担当者	福田 求
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【注意】受講者の抽選を行う。詳細は教務課からの説明資料（時間割表、掲示等）を参照し、不明な点があれば教務課経済学部窓口で確認すること。</p> <p>【目的】本講義での情報サービスとは、図書館の情報提供機能を具体化するサービス全般のことをいうが、これにはレファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、さらにはCD-ROMやオンラインの検索サービス等、さまざまなサービスが含まれる。本講義ではこの情報サービスの総合的な理解を目指し、情報サービスに関する解説と演習を行う。</p> <p>【概要】前期では、図書館の情報サービスについての基本的な事項を解説する。また後期においては主に、情報サービス(特にレファレンスサービス)の実践的能力を養成するために、参考図書等さまざまな情報源を用いた検索および回答の実習を行う。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末試験。これに平常点(実習への参加態度等)を加味する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>適宜指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習についての説明</li> <li>2 情報サービスで用いる情報源の類別</li> <li>3 辞書</li> <li>4 事典</li> <li>5 便覧／図鑑</li> <li>6 前半部分のまとめ。質問受付。</li> <li>7 歴史／地理・地名の情報源</li> <li>8 人物・団体の情報源</li> <li>9 統計の情報源</li> <li>10 文献検索の情報源</li> <li>11 最新の情報サービス(b)</li> <li>12 授業全体のまとめ。質問受付。</li> </ol>	

	情報検索演習	担当者	高柳敏子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>はじめに、情報検索システムの一連の流れの蓄積段階と検索段階を概観する。蓄積段階では、一次資料から二次資料への情報の加工の課程で、情報の入手、主題分析、検索式の作成、索引、データベースといった処理項目を、また検索段階では、情報要求、検索質問、検索式、シートの利用、索引との照合、検索結果の評価といった諸項目を順に解説する。</p> <p>検索式の解説では、ブール演算子を用いた情報検索の表現方法を、またシートについてはその構成と目的を、さらに実際の検索および結果の評価では、再現率と適合率等について学ぶ。</p> <p>実践的な情報検索能力を養うために、オンライン検索ではインターネット上の各種情報検索システムをできるだけ活用し、CD-ROMを使用したオンライン検索では練習用のJ-BISCによる実習を、また最近のマルチメディア辞典等も扱ってみる。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 情報、情報検索とは</li> <li>2 情報検索システム 情報検索システムの蓄積段階と検索段階</li> <li>3 検索演習(1) OPAC とインターネット</li> <li>4 蓄積段階の諸項目 一次資料と二次資料、主題分析、検索式、索引</li> <li>5 情報検索とデータベース データベースとは</li> <li>6 検索演習(2) オンライン検索、CD-ROM の利用</li> <li>7 検索段階の諸項目(1) 情報要求、検索質問、検索式</li> <li>8 検索演習(3) J-BISC の実習</li> <li>9 検索段階の諸項目(2) 検索結果の評価、再現率、適合率</li> <li>10 検索演習(4) シート等検作用辞書の利用、JOIS 体験</li> <li>11 オンライン検索とインターネット インターネットとサーチエンジン</li> <li>12 検索演習(5) 総合的な検索演習、まとめ</li> </ol>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>4～5 回程度の実習レポートおよび出席を加味して評価する。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>渡辺、北、澤井、原田共著『情報検索演習』新・図書館学シリーズ-6、樹村房、1998</p>			

	*****	担当者	*****
<p>◆講義目的、講義概要</p>		<p>◆授業計画</p>	
<p>◆ 評価方法</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p>			

	情報検索演習	担当者	福田 求
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【注意】受講者の抽選を行う。詳細は教務課からの説明資料（時間割表、掲示等）を参照し、不明な点があれば教務課経済学部窓口で確認すること。</p> <p>【目的】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に、コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を、解説および実習を通して体得する。</p> <p>【概要】本講義ではまず、情報検索に関する基礎的な概念について解説する。そしてその知識を踏まえた上で、実際の情報検索技術に慣れ、習熟するために、WWWの検索エンジンやCD-ROMデータベース、商用オンラインデータベースを用いた情報検索の実習を行う。実習では可能なかぎり、受講者が今後の調査/研究活動で利用できるような情報源を紹介する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末試験。これに平常点(実習への参加態度等)を加味する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>適宜指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション。情報検索の概要</li> <li>2 データベース</li> <li>3 索引語, シソーラス</li> <li>4 情報検索関連作業のプロセス</li> <li>5 検索式</li> <li>6 前半部分のまとめ。質問受付。</li> <li>7 検索結果の評価</li> <li>8 WWWの検索エンジン(1)</li> <li>9 WWWの検索エンジン(2)</li> <li>10 CD-ROM検索</li> <li>11 商用オンラインデータベースの検索</li> <li>12 授業のまとめ。質問受付。</li> </ol>	

	*****	担当者	*****
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	



<b>図書館資料論</b>		担当者	井上 靖代
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>図書館を構成する4要素のひとつである図書館資料について、その選択・収集・提供・廃棄などを方針や政策さらにツールなど、情報源としての図書館資料全般の特質を論じ、その種類、出版と流通、選択、選択ツール、保存管理などについて解説する。</p> <p>司書課程MLを活用するので、大学等でメール・アドレスを取得しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 図書館資料の意義</li> <li>2 図書館資料の定義 －図書館にあるのは本だけじゃない！－</li> <li>3 表現の自由と検閲 －表現の自由と出版倫理－</li> <li>4 図書館における知的自由 －「図書館の自由に関する宣言」と図書館における資料収集の自由、資料提供の自由などについて－</li> <li>5 印刷資料 －印刷資料の種類、定義など－</li> <li>6 非印刷資料 －視聴覚資料、電子資料、博物資料など－</li> <li>7 図書館資料の出版と販売 －出版流通について知る－</li> <li>8 蔵書の形成 －図書館コレクションの形成－</li> <li>9 資料の収集と選択 －専門職の仕事とは－</li> <li>10 資料の受け入れ －図書館実務－</li> <li>11 書庫管理 －資料保存－</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
◆ 評価方法			
出席(12×2=24%)レポート(15×2=30%)試験(46%)により評価する。			
◆テキスト、参考文献			
『図書館資料論』馬場俊明編 日本図書館協会 1998年			

*****		担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>			

	専門資料論	担当者	松下 鈞
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>誰にも身近なメディアである音楽媒体（視聴覚資料、楽譜等など）を取り上げ、その発展史、図書館資料としての問題点などを多角的に検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆音楽資料（視聴覚資料、楽譜等など）の種類、形態の多様性、特徴などなどをメディア発展史から概観する。</li> <li>◆音楽資料を図書館資料として扱う際に直面する、目録作成、目録情報へのアクセスなどの諸問題について理解を深める。</li> <li>◆電子情報化が音楽資料に与える影響と出版・流通界、図書館界などの対応及び国際的動向を理解する。</li> </ul> <p>◆ 評価方法</p> <p>頻繁な課題レポートの提出、グループ研究・発表及び最終レポートによる。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは適宜プリントを配布する。 参考文献は適宜紹介する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>01. 音楽資料とは何か？</li> <li>02. 音楽音響資料の歴史と問題点</li> <li>03. 音楽映像資料の歴史と問題点</li> <li>04. 楽譜の歴史と問題点</li> <li>05. 音楽ドキュメンテーションの問題点</li> <li>06. 音楽資料へのアクセス</li> <li>07. 図書館における音楽資料の扱い（1）</li> <li>08. 図書館における音楽資料の扱い（2）</li> <li>09. 音楽資料と著作権の問題</li> <li>10. 音楽資料を取り巻く社会動向</li> <li>11. 音楽資料と学術研究</li> <li>12. 音楽資料と図書館協力</li> </ol> <p>以上について講義を中心とし、グループ研究とグループ発表、個人レポートなどを交えて展開する。</p>	

	*****	担当者	*****
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p> </p> <p>◆ 評価方法</p> <p> </p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p> </p>		<p>◆授業計画</p> <p> </p>	

	資料組織概説	担当者	松下 鈞
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>電子情報時代の我々を取り巻く多種多様な情報と人々を結ぶための図書館技法「資料組織法」を多角的に検討する。記述目録法、主題目録法、典拠コントロールなどを中心として、理論と実践に関する基本的理解を深めることを目標とする。</p> <p>◆利用者が情報や資料にアクセスする際の検索行動について学ぶ。 ◆情報・資料媒体を文字情報に代替する技法（記述目録）、内容を分析し、利用者の使う検索ワードを図書館の標準的な言葉の体系に置き換える技法（主題目録）、異なる言葉、概念を関連づけてアクセス可能性を高めるための技法（典拠コントロール）を学ぶ。 ◆情報の電子化によってこれまで存在していたあらゆる境界が消失しつつある目録世界の動向を知り、今後の資料組織の方向性を探る</p>		<p>◆授業計画</p> <p>01) 利用者の情報アクセス行動 02) I S B Dと目録データの構造 03) 情報媒体の記述 (1) 04) 同 (2) 05) 主題の分析と抽出 (1) 06) 同 (2) 07) 典拠コントロール 08) コンテンツ・データベース 09) 電子情報、ネットワーク情報源 10) 継続資料 (Continuing Resources) 11) (世界目録と目録統合とメタデータ 12) 博物館、文書館などにおける資料組織と図書館資料組織の今後の展開</p> <p>以上について、講義を主とし、課題演習、グループ研究・発表を交えて授業を進める</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>頻繁な課題レポート、グループ研究及び期末レポートによる。授業への参加態度をも加味する。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは適宜プリントを配布する。 参考文献は適宜紹介する。</p>			

	*****	担当者	*****
<p>◆講義目的、講義概要</p>		<p>◆授業計画</p>	
<p>◆ 評価方法</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p>			

	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

	資料組織演習	担当者	松下 鈞
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>◆AACR 2（英米目録規則 2 版）、NCR（日本目録規則）、NDC 9 版（日本十進分類表）、国立国会図書館件名標目表などの構造を理解し、情報資料組織法の基礎技術を学ぶ。</p> <p>◆MARC（機械可読目録）の構造を理解し、オンライン目録データベース構築の基礎を学ぶ、</p> <p>◆OPAC 検索によって目録データの構造とアクセスポイントの意味を理解する。</p> <p>◆AACR 2、NCR の目的、構成などを把握し、実際に資料を手にしながらか述目録の作成プロセスを演習する。</p> <p>◆コンテンツ・データベース作成実習を行う。</p> <p>◆NDC、国立国会図書館件名標目表の構造を理解し、多くの事例にあたって主題目録法を演習する。</p> <p>◆オンライン情報資源の組織化についても実習する</p>		<p>0 1) NCR による記述目録作成 (1)</p> <p>0 2) 同 (2)</p> <p>0 3) NACSIS-CAT の構造と MARC 演習 (1)</p> <p>0 4) 同 (2)</p> <p>0 5) NDC による主題目録作成 (1)</p> <p>0 6) 同 (2)</p> <p>0 7) 件名標目の選定</p> <p>0 8) 非図書資料の資料組織 (1)</p> <p>0 9) 同 (2)</p> <p>1 0) コンテンツ・データベースの作成</p> <p>1 1) オンライン情報源のデータ作成</p> <p>1 2) Pathfinder の作成</p> <p>以上について基本事項の解説の後、多くの事例にあたって演習を行う。</p>	
◆ 評価方法			
頻繁な課題レポート、提出物及び期末レポートによる。演習への参加態度も加味する			
◆テキスト、参考文献			
テキストは適宜プリントを配布する。 参考文献は適宜紹介する			

	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>◆ 評価方法</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p>			

	児童サービス論	担当者	井上 靖代
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>公立図書館・学校図書館などにおける児童およびヤングアダルト向けサービスのうち、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●資料に習熟する</li> <li>●図書館プログラムの企画・実際・評価を通じての経営の理解を学ぶ</li> </ul> <p>子どもとヤングアダルト向け資料やサービスをめぐる多様な課題—不読書、検閲・焚書、絶版、メディアの多様化—などを考えることを主たる講義内容とする。</p> <p>最低60冊以上の子どもの本、絵本などを読んで書評作成などが課題となる。したがって、できるだけ多くの子どもの本を読んでいくことになる。</p> <p>司書課程MLを活用するので、大学等でメール・アドレスを取得しておくこと。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席点(12×2=24)課題(3回×20、1回×16)により評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>最初の授業時に参考文献および読書リストを配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 現状分析—「子ども」の概念、図書館と「子ども」—</li> <li>2 児童・ヤングアダルト向けサービスの理念</li> <li>3 児童・ヤングアダルト担当図書館員の役割</li> <li>4 児童心理学と読書興味</li> <li>5 資料選択と“どう伝えるか” <ul style="list-style-type: none"> <li>—絵本を中心として：「読み聞かせ」「アニメーション」など—</li> </ul> </li> <li>6 資料選択と“どう伝えるか” <ul style="list-style-type: none"> <li>—伝承文学を中心として：「語り」「ストーリーテリング」など—</li> </ul> </li> <li>7 資料選択と“どう伝えるか” <ul style="list-style-type: none"> <li>—児童書と児童文学を中心として—</li> </ul> </li> <li>8 資料選択と“どう伝えるか” <ul style="list-style-type: none"> <li>—知識の本と調べ学習、図書館利用—</li> </ul> </li> <li>9 資料選択と“どう伝えるか” <ul style="list-style-type: none"> <li>—ポップ文化：映像と音楽、ディズニーの功罪など—</li> <li>—YA(10代)への図書館サービス—</li> </ul> </li> <li>10 資料と図書館をめぐる課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>—検閲・焚書、絶版、不読書・過読書など：「子どものために」良い本なのか悪い本なのか—</li> </ul> </li> <li>11 図書館プログラム企画 <ul style="list-style-type: none"> <li>—財政計画、人事管理など—</li> </ul> </li> <li>12 図書館プログラムの実際</li> </ol>	

	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 200px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 200px;"></div>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

	図書及び図書館史	担当者	井上 靖代
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>図書館にも歴史がある。情報メディアの変化は世界史のなかでの社会の動きと連動している。グーテンベルグが改良した印刷術によって印刷された「四十二行聖書」は、ヨーロッパ社会を中世から近代へと人々の意識を変革させたひとつの要因といえる。時代を動かした本の世界は図書館の世界でもある。したがって、この科目では、資料メディアの歴史と社会と連動してきた図書館の歴史とを学んでいく。</p> <p>司書課程MLを活用するので、大学等でメール・アドレスを取得しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 コミュニケーションとメディア</li> <li>2 記録メディアの歴史(1)</li> <li>3 記録メディアの歴史(2)</li> <li>4 図書館活動史</li> <li>5 アメリカの図書館史(1)</li> <li>6 アメリカの図書館史(2)</li> <li>7 イギリスの図書館史</li> <li>8 日本の図書館史(1)明治維新以前</li> <li>9 日本の図書館史(2)明治以後、近代の図書館</li> <li>10 日本の図書館史(3)市民の図書館の発展</li> <li>11 分野別の図書館活動史</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 出席点(12×2=24%) レポート(26%)  試験(50%)により評価する。 </div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 小黒浩司編著『図書および図書館史』日本図書館協会 2000年 </div>			

	資料特論	担当者	千葉治
<b>◆講義目的、講義概要</b> 図書館は、「本との出会い、人との出会い」のひろばであり、多様な資料・情報が集積され利用される。公共図書館の実践に基づき、郷土資料・行政資料・視聴覚資料などの各資料の特質を論じ、その収集・利用等について解説する。		<b>◆授業計画</b> 1 図書館資料の種類 2 墨田区立八広図書館の事例から (1) 郷土資料・行政資料 (2) 視聴覚資料 (3) 地図・観光パンフレット・電話帳・大型紙芝居 3 佐賀市立図書館の事例から (1) 郷土資料 (2) 行政資料 (3) 視聴覚資料 (4) 絵画・写真・楽譜・自作資料 4 各図書館の事例から (1) 子どものための資料 (2) 図書館利用に障害のある人のための資料 (3) 県立図書館・国立国会図書館の資料 5 まとめ・小テスト	
<b>◆ 評価方法</b> レポート・小テスト・出席状況			
<b>◆テキスト、参考文献</b> プリント配布 各地の図書館などをビデオで紹介する。			

	*****	担当者	*****
<b>◆講義目的、講義概要</b>		<b>◆授業計画</b>	
<b>◆ 評価方法</b>			
<b>◆テキスト、参考文献</b>			

	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

	コミュニケーション論	担当者	町田 喜義
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>目標:「コミュニケーション」の概念を理解し、「コミュニケーション・リテラシー」の理解・応用へと発展させることができる。</p> <p>概要:学習とコミュニケーション、日常生活における言語・非言語コミュニケーションの機能と役割などを学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロローグ: 概要説明</li> <li>2. コミュニケーションとは①</li> <li>3. 同上 ②</li> <li>4. 記号論入門①</li> <li>5. 同上 ②</li> <li>6. 言語活動の再検討①</li> <li>7. 同上 ②</li> <li>8. 非言語活動①</li> <li>9. 同上 ②</li> <li>10. メディアリテラシー①</li> <li>11. 同上 ②</li> <li>12. エピローグ: まとめ</li> </ol>	
◆ 評価方法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席回数: 20% (欠席3点減、遅刻1点減);</li> <li>・ 授業回数の1/3欠席は単位不認定。</li> <li>・ レポート (40%)</li> <li>・ 定期試験 (40%)</li> </ul>			
◆テキスト、参考文献			
<p>テキストは使用しない。詳細は開講時に示す。</p>			



	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

	図書館特論	担当者	千葉治
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>図書館は、「本との出会い、人との出会い」のひろばであり、「図書館は成長する有機体である」（ランガナタン著「図書館学の五法則」）ともいわれる。公共図書館の実践に基づき、「土地の事情及び一般公衆の希望にそい」（図書館法第三条）の視点で、図書館における今日的な課題について取り上げ解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本の図書館40年概観</li> <li>2 墨田区立図書館の事例から <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 職場の話し合いと仕事の改善</li> <li>(2) 「本のある広場」—八広図書館開館</li> <li>(3) あなた自身の住民参加を</li> </ol> </li> <li>3 佐賀市立図書館の事例から <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 楽しく自由に気持ち良い「本のある広場」</li> <li>(2) 図書館ボランティア</li> <li>(3) コミュニケーションを大切に</li> </ol> </li> <li>4 各地の事例から <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 文庫活動</li> <li>(2) 複合問題</li> <li>(3) 委託問題</li> <li>(4) 図書館評価</li> </ol> </li> <li>5 まとめ・小テスト</li> </ol>	
◆ 評価方法			
レポート・小テスト・出席状況			
◆テキスト、参考文献			
プリント配布 各地の図書館などをビデオで紹介する。			

<b>学校経営と学校図書館</b>		担当者	井上 靖代
<b>◆講義目的、講義概要</b> <p>この科目では学校図書館の教育的意義や経営など全般的事項についての理解を図ることを目的とする。</p> <p>生涯学習社会における学校と学校図書館メディア・センター、そして子どもたち自身の「生きる力」を育てるのは司書・司書教諭の力である。学校図書館における人の役割と果たすべき使命について考えていく。</p> <p>※司書教諭課程MLを活用するので、大学等でメール・アドレスを取得しておくこと。</p>		<b>◆授業計画</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校図書館と公立公共図書館 —学校図書館法と図書館法など—</li> <li>2 学校図書館の理念と教育的意義</li> <li>3 学校図書館の発展と課題</li> <li>4 教育行政、学校図書館法と学校図書館、そして学校図書館メディア・センター</li> <li>5 学校図書館の経営 —施設と「情報化」—</li> <li>6 学校図書館の経営 —人の問題—</li> <li>7 学校図書館の経営 —予算、評価など—</li> <li>8 学校図書館の経営 —施設と資料、選択・活用など—</li> <li>9 校内の協力体制、研修など</li> <li>10 学校図書館活動</li> <li>11 図書館の相互協力とネットワーク</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
<b>◆ 評価方法</b> 出席点(12×3=36%) レポート(32×2=64%)により評価する。			
<b>◆テキスト、参考文献</b> 『学校図書館論』補訂2版(新編図書館学教育資料集成 9) 塩見昇編 教育史料出版会、2003年			

*****		担当者	*****
<b>◆講義目的、講義概要</b>               		<b>◆授業計画</b>               	
<b>◆ 評価方法</b>  			
<b>◆テキスト、参考文献</b>  			

*****		担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

学校図書館メディアの構成		担当者	井上 靖代
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成を目指しながら、司書教諭としての基本的な考えの構築を図る。高度情報社会における学習環境の変化にともなうメディアの教育的意義と役割について論じ、同時に各種メディアの種類と特性を説明し、そのメディアの選択と収集を目指し評価を行う能力を養う。</p> <p>目録・分類の実習を重点的におこない、毎回課題を提出してもらう。</p> <p>※司書教諭課程MLを活用するので、大学等でメール・アドレスを取得しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高度情報社会における学校図書館メディアの意義</li> <li>2 学校図書館メディア・センターにおける資料の種類と特性</li> <li>3 学校図書館メディア・センターにおける資料の選択・収集(1)</li> <li>4 学校図書館メディア・センターにおける資料の選択・収集(2)</li> <li>5 学校図書館メディア・センターにおける資料の組織化</li> <li>6 学校図書館メディアの分類</li> <li>7 学校図書館メディアの件名目録</li> <li>8 学校図書館メディアの目録(1)</li> <li>9 学校図書館メディアの目録(2)</li> <li>10 学校図書館メディアの目録(3)データベース化</li> <li>11 ファイリング資料の構築</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
◆ 評価方法			
出席点(12×1=12)課題(86%)により評価する。			
◆テキスト、参考文献			
『図書館資料の目録と分類』増訂第2版 日本図書館研究会編・発行 2000年			

学習指導と学校図書館		担当者	井上 靖代
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>学習指導における学校図書館メディアの活用についての理解を図ることを目的とする。</p> <p>また、学習指導要領の改訂のなかで、「総合的な学習」で学校図書館の活用が明記されている。児童・生徒たちの主体的なメディア活用能力の育成を目的とした授業成立を援助する学校図書館司書教諭の役割を理解し、実践する講義内容とする。</p> <p>具体的には、教科指導のなかで、あるいは総合的な学習のなかで、学校図書館と図書館資料、情報メディアを活用してどのような指導が行えるか、指導教案作成をおこなう。さらに、児童・生徒たちに調べてもらうために、教師自身が情報探索能力を身に付けておくことが求められるので、実習として情報探索活動をおこなってもらう。</p> <p>※司書教諭課程MLを活用するので、大学等でメール・アドレスを取得しておくこと。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 主体的学習とメディア活用能力育成</li> <li>2 メディア活用能力育成の計画と方法 －教科指導と学校図書館－</li> <li>3 メディア活用能力育成の展開 －教科等と融合しての指導計画作成(1-1)</li> <li>4 メディア活用能力育成の展開 －教科等と融合しての指導計画作成(1-2)</li> <li>5 メディア活用能力育成の計画と方法 －総合的な学習と学校図書館－</li> <li>6 メディア活用能力育成の展開 －「図書の時間」などを設定しての指導計画作成(1)</li> <li>7 メディア活用能力育成の展開 －「図書の時間」などを設定しての指導計画作成(2)</li> <li>8 レファレンス・コレクションの選択・収集・整備・活用</li> <li>9 情報探索のプロセス</li> <li>10 インターネット活用の情報探索のプロセス</li> <li>11 情報探索の指導案への導入 －調べ学習や卒論・自由研究指導など－</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>出席点(12×1=12%) レポート(15×4=60%) 発表(28%)により評価する。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p>			

学習指導と学校図書館		担当者	井上 靖代
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>		<p>◆授業計画</p>	
<p>◆ 評価方法</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p>			

	読書と豊かな人間性	担当者	井上 靖代
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>目標:学校図書館の機能を一層充実させ、児童・生徒の読書の相談、発達段階におこなう適切な読書教育の理論とその具体化のための読書指導の方法論を身につける。</p> <p>講義概要:小・中・高校の図書館を舞台として、児童・生徒に「読むことは楽しい」ということを実体験してもらい、「読む」ことによって多様な生き方やもの考え方を知り、自分自身を考え、自分自身の生活を選び取っていく力を身につけてもらう援助活動をどうするのかを考え、学校司書や司書教諭として実践していく力をつけるために、多くの読書資料にふれる。児童・生徒に読書をすすめ、楽しんでもらうためには教師自身がたくさん子どもの本を読んでいることが肝要である。したがって、この科目では多くの子どもの本を読んでもらう。</p> <p>※司書教諭課程MLを活用するので、大学等でメール・アドレスを取得しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの「読む」ということを考える - 識字＝リテラシー、ことばの力を考える-</li> <li>2 子どもの発達心理と知的好奇心について知る(1) - いつ頃から子どもは本を楽しめるのか-</li> <li>3 子どもの発達心理と知的好奇心について知る(2)</li> <li>4 児童・生徒向け読書資料の種類を知る(1)絵本を読む: - ディズニー版『眠れる森の美女』とF・ホフマンの『ねむりひめ』を比べてみる-</li> <li>5 児童・生徒向け読書資料の種類を知る(2)幼年文学を読む: - 『くまの子ウーフ』『くまのパディントン』『くまのプーさん』の世界を探索する-</li> <li>6 児童・生徒向け読書資料の種類を知る(3)ノン・フィクション、科学の本などを読む:- 読書は読みものを読むことだけじゃない</li> <li>7 児童・生徒向け読書資料の種類を知る(4)児童文学を読む: - 古典からファンタジーまで:ハリポタより指輪物語への読書の旅-</li> <li>8 児童・生徒向け読書資料の種類を知る(5)児童文学を読む: - ジャンルもの、文庫など:読まない中学生がハマる本とは-</li> <li>9 児童・生徒向け読書資料の種類を知る(6)児童文化:- 世界に広まるマンガ、アニメ、ゲームなどを読む-</li> <li>10 子どもに「読む」楽しさを伝える(1)</li> <li>11 子どもに「読む」楽しさを伝える(2)</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			
<p>出席点(12×2=24%)レポート(15×3=45%)最終課題(30%)により評価する。</p>			

	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

	*****	担当者	*****
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>	
◆評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

	情報メディアの活用	担当者	福田 求
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【注意】受講者の抽選を行う。詳細は教務課からの説明資料（時間割表、掲示等）を参照し、不明な点があれば教務課経済学部窓口で確認すること。</p> <p>【目的】学校教育においてその重要性が再認識され新たな役割を担うことが期待され始めた学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。</p> <p>【概要】まず、現在までの情報メディアの発達と変化を検討し、現代社会が高度情報社会であることを確認する。また、各種情報メディアの特性について概観した後、学校教育の目的や状況に応じてどのようなメディアを選択すべきかも考察する。次に、視聴覚メディア、インターネット、データベース、教育用ソフトウェアといったツールごとに、その活用方法について学校教育との関わりを見ながら具体的に論じていく。そして最後に、学校図書館メディアと著作権の関わりを講じ、また、講義全体のまとめを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：年間予定、授業方法等の注意事項について説明。</li> <li>2 高度情報社会と学校教育。情報メディアの特性と選択。</li> <li>3 学校教育における視聴覚メディアとコンピュータの活用。</li> <li>4 インターネットによる情報検索と発信(1)。</li> <li>5 インターネットによる情報検索と発信(2)。</li> <li>6 前半部分のまとめ。質問受付。</li> <li>7 オフラインデータベースと情報検索(1)。</li> <li>8 オフラインデータベースと情報検索(2)。</li> <li>9 教育用ソフトウェアの活用。</li> <li>10 学校での取り扱いに注意すべき情報。</li> <li>11 学校図書館メディアと著作権。</li> <li>12 授業全体のまとめ。質問受付。</li> </ol>	
◆評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">出席・授業中のレポート・学期末試験。</div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">適宜指示する。</div>			